



2017 吳高專

2017

要覽

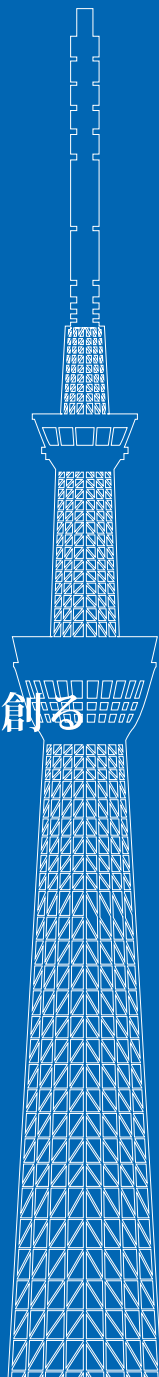
独立行政法人 国立高等専門学校機構

吳工業高等専門学校

Realize Your Dream



君の未来を共に創る



校章



校旗



本校の校章は、呉市にちなんで呉市の市章の中に「高専」の文字を入れたものです。呉市の市章は、呉市の周辺が九つの峰で囲まれていることから、これを呉（九嶺）としてあやかり、カタカナの「レ」で九つの星形をかたどったものですが、本校の校章はそれを楕円形とし、更に波の形が付加されています。レの字が山の強さを、波が瀬戸内海の柔らかい水を表徴しています。鉄のように鋭い剛なものをも骨とし、方円に従う水のような柔らかさを肉として包むのが我が校風です。

ロゴマーク



ロゴマーク立体版



本校のロゴマークは、呉高専が独立行政法人になることをきっかけに平成16年に制定し、導入されました。図案は学内コンペで募集し、多数の応募の中から当時建築学科4年生の図案が最優秀作品に選ばれました。呉高専の頭文字「K」を形どった人の形（学生をイメージ）は、手を未来を示すように空に向かって伸ばし、右肩上がりで学校の飛躍発展を意味しています。円は学校・社会・日本などのさまざまな意味を持ち、そこから一歩踏み出して、地域社会や国際的な場で夢を実現させることを意味しています。平成29年度からはロゴマーク立体版も制定され、呉高専のイメージアップを図っています。

設置学科

【本科】定員 800 名（修業年限：5 年）

機械工学科／電気情報工学科／環境都市工学科／建築学科

【専攻科】定員 80 名（修業年限：2 年）

プロジェクトデザイン工学専攻

卒業者数

機 械 工 学 科	1,827 名（ 28 名）
電 気 工 学 科	1,399 名（ 60 名）
電 気 情 報 工 学 科	432 名（ 25 名）
土 木 工 学 科	907 名（ 49 名）
環 境 都 市 工 学 科	637 名（152 名）
建 築 学 科	1,788 名（516 名）
合 計	6,990 名（830 名）（ ）は女子内数

修了者数

機 械 電 気 工 学 専 攻	212 名（ 2 名）
建 設 工 学 専 攻	177 名（ 50 名）
合 計	389 名（ 52 名）（ ）は女子内数

平成 29 年 3 月 31 日現在

君の未来を共に創り、君の夢を実現する

イノベーション。IT技術の驚異的な進歩はインターネットを通して世界を一つにし、グローバル化を加速しました。今後さらなる変化が予想される社会に対応するには確固たる基礎学力をベースに、地球的視野をもち、ものごとの本質を考え知識を総合化し、知識を知恵に変えることが肝要です。

呉高専は2014年に創立50周年を迎えましたが、これからの半世紀を生き残るため、人々を幸せにするには何が必要か自ら課題を見出し、アイデアを創出し、それを具現化する、いわゆる「プロジェクトをデザインできる人材」を育成すべく鋭意教育改革を進めています。一昨年度からその第一弾として、全校あげて「インキュベーションワーク」に取り組み、併せて昨年度専攻科を改組し、定員も大幅に増やし、この目的を実現すべく、7年一貫教育の体制を強化しました。

呉高専ではこのような教育を通じ、学生の夢の実現に向け全力でサポートし、ものづくりの中核となる「文句なし」にいい学生を、地域と共に育てたいと考えています。



校長 森野 数博

博士(工学)

呉工業高等専門学校校歌

作詞 葛西 重男
作曲 早川 正昭

一 寄りきそう 九嶺の山々

あかつきの 光映えたり

ああ、ここに集う 我等若人

仰ぎ見る 峯の姿に

大いなる 望み抱きて

友よ、友よ、いざ

たくましく わが命育てん

二

清らなる 大川の水

悠久の 時流れたり

ああ、ここに集う 我等若人

緑なす 水上の辺に

湧きいずる 知識求めて

友よ、友よ、いざ

ひとすじに わが力つくさん

三

夕霧ろう 瀬戸の内海

往きかいの 船呼びあえり

ああ、ここに集う 我等若人

麗しき 学びの舎に

永遠の世の 平和めざして

友よ、友よ、いざ

もろともに わが業を励まん



Contents

校長挨拶	2
沿革・概要	4
教育理念、教育目的、学習・教育目標、3つのポリシー	6
Realize Your Dream・教育改革の成果	8
学科等の紹介	
■ 機械工学科	10
■ 電気情報工学科	12
■ 環境都市工学科	14
■ 建築学科	16
■ 一般科目	18
■ 専攻科	20
教育センター	24
インキュベーション・デザイン室	26
学校行事	28
国際交流	30
地域との連携	32
学生会	34
施設	
図書館	35
協働研究センター	36
技術センター	37
学生寮	38
福利厚生施設	40
図書館棟とその周辺	41
組織	42
教員一覧	44
資料	
在学状況等	48
入学選抜実施状況	49
修学経費等	50
進路状況	50
進学状況	51
就職状況	52
教員の研究活動の推移	54
収入支出決算額	54
施設の概要	55
呉市の紹介・本校へのアクセス	56

沿革

昭和37年8月13日	呉工業高等専門学校設置期成同盟会設立
昭和38年4月1日	国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和38年法律第69号)により、呉工業高等専門学校の39年度開校が決定(機械工学科、電気工学科、建築学科)
昭和39年4月1日	初代校長に葛西重男(広島大学工学部教授)が就任
4月20日	開校式及び第1回入学式挙行
昭和42年4月1日	事務部に庶務課及び会計課設置
昭和44年3月18日	第1回卒業証書授与式挙行
4月20日	土木工学科増設
昭和47年4月1日	事務部に学生課設置
昭和49年11月16日	創立10周年記念式典挙行
昭和50年4月1日	第2代校長に佐藤重夫(広島大学工学部教授)が就任
昭和54年4月1日	編入学生受入れ開始
昭和58年6月2日	第3代校長に西正任(広島大学工学部教授)が就任
昭和59年10月18日	創立20周年記念式典挙行
昭和62年4月1日	情報処理センター設置
平成元年4月1日	外国人留学生受入れ開始
平成2年4月1日	第4代校長に片島三朗(広島大学工学部教授)が就任
平成6年10月21日	創立30周年記念式典挙行
平成8年4月1日	第5代校長に長町三生(広島大学工学部教授)が就任
〃	土木工学科を環境都市工学科に改組
平成9年4月1日	地域共同技術研究・教育センター設置
平成10年4月1日	専攻科設置
平成12年4月1日	地域共同技術研究・教育センターを地域共同テクノセンターに改称
平成13年4月1日	第6代校長に福永秀春(広島大学工学部教授)が就任
〃	総合教育技術室設置
平成14年4月1日	電気工学科を電気情報工学科に改組
平成16年4月1日	独立行政法人国立高等専門学校機構法(平成15年法律第113号)により、呉工業高等専門学校が設置
平成17年5月12日	技術者教育プログラム「環境都市工学プログラム」をJABEE(日本技術者教育認定機構)が認定
平成18年5月8日	技術者教育プログラム「機械工学コース」、「建築学コース」をJABEE(日本技術者教育認定機構)が認定
平成19年3月28日	大学評価・学位授与機構による機関別認証評価の結果、高等専門学校評価基準を満たしていると認定
平成19年4月2日	第7代校長に遠藤一太(広島大学入学センター長)が就任
平成20年4月1日	事務部2課制(総務課・学生課)に移行
平成21年4月1日	図書館、情報処理センター、地域共同テクノセンター、総合教育技術室を教育センター、協働研究センター、技術センターに改組
平成22年5月13日	技術者教育プログラム「電気情報工学プログラム」をJABEE(日本技術者教育認定機構)が認定
平成24年4月1日	第8代校長に森野数博(徳山工業高等専門学校教授)が就任
平成26年3月26日	大学評価・学位授与機構による機関別認証評価の結果、高等専門学校評価基準を満たしていると認定
平成26年10月25日	創立50周年記念式典挙行
平成28年4月1日	専攻科の2専攻(機械電気工学専攻、建設工学専攻)を1専攻(プロジェクトデザイン工学専攻)に改組

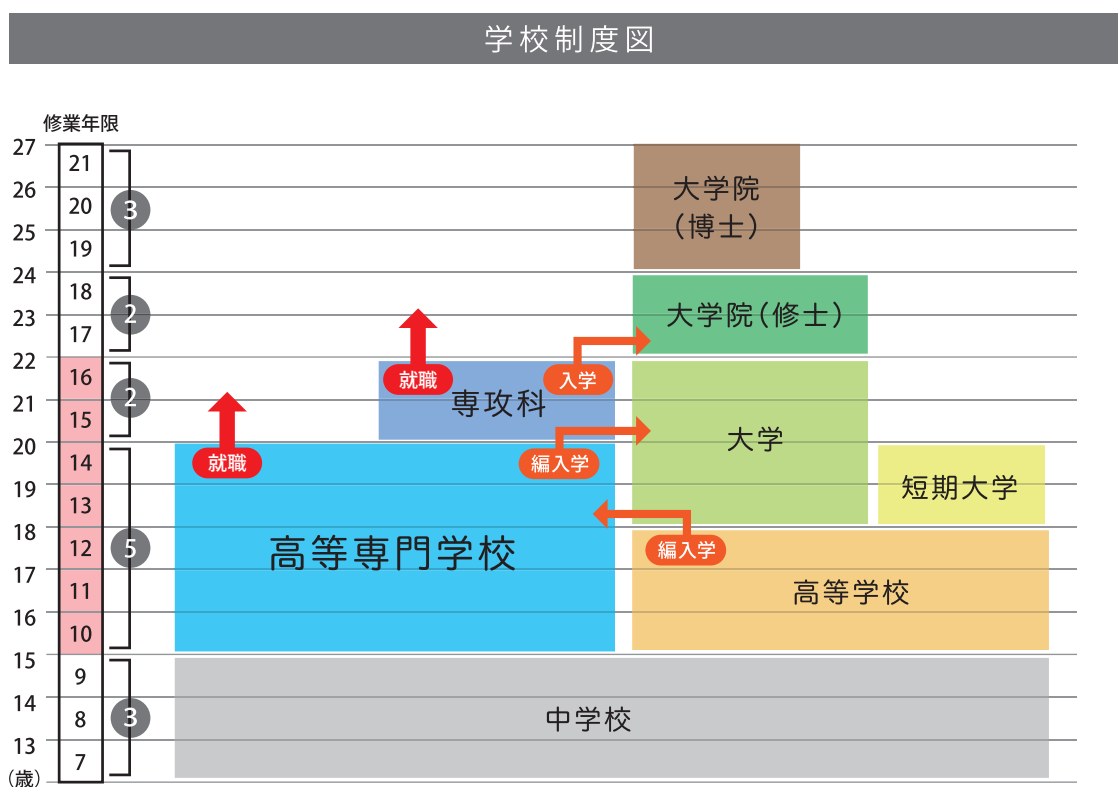
高等専門学校の概要

昭和30年代における我が国の産業界の目覚ましい発展に伴い、科学技術者の需要に即応するため、工業に関する技術者を養成することを目的として、昭和37年度から新たな学校制度として、高等専門学校が発足し、昭和39年に呉工業高等専門学校が創立された。

高等専門学校は、中学校卒業程度を入学資格とする5年制の高等教育機関であり、深く専門の学芸を教授し、豊かな教養と職業に必要な能力を育成することを目的としている。

科学技術の高度化に伴い、高等専門学校卒業後、進学を希望する者のために、平成3年の学校教育法の一部改正により、精深な程度において特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として高等専門学校に新たに専攻科制度が創設され、平成10年、本校に専攻科（2年制）が設置された。

平成16年4月、高等教育改革の一環として、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とし、独立行政法人国立高等専門学校機構呉工業高等専門学校が設置された。



創立50周年記念式典

教育理念

「開発研究とものづくりの現場を結ぶ人材であれ」
～ものづくり現場を理解し企画開発力を持った「中核技術者」の育成～

本校は、東洋一の技術集積のあった「呉」にある高等専門学校として、15歳からの5年間または7年間の一貫教育、実験・実習を重視した教育活動により、理論と技能を結びつける技術者を育成することを旨とする。

本科

○教育目的

豊かな教養と国際性を持ち、それぞれの専門分野において実験・実習・演習を重視した教育により工学に関する知識や技術を身に付け、各分野の課題に対応できる人材を育成する。

○各学科の教育目的

- ・機械工学科 ものづくりを通して社会の発展に貢献できる機械技術を有する人材の育成
- ・電気情報工学科 絶え間なく進化する科学技術に対応できる電気情報技術を有する人材の育成
- ・環境都市工学科 豊かで快適な自然環境や社会基盤を整備する技術を有する人材の育成
- ・建築学科 安全で快適な生活空間を創造する技術を有する人材の育成

○学習・教育目標

- (HA) 豊かな教養と国際性の修得
- (HB) 工学に関連する基礎知識の修得
- (HC) 専門分野の課題に対応できる能力の修得
- (HD) 社会のニーズを捉え、創造的に課題に対応できる能力の修得

○ディプロマ・ポリシー

※ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー中の (HA) ～ (HD) は、学習・教育目標とそれぞれ対応しています。

学習・教育目標に沿って設けた授業科目を履修し、以下の項目にあげる知識・能力を身に付け、167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得した学生に準学士（工学）を授与する。

- (HA) 技術者として必要な教養とコミュニケーション力を身に付けている
 - ・人文・社会科学系科目を修得する
- (HB) 専門分野に活用できる工学に関する基礎知識を身に付けている
 - ・自然科学系科目を修得する
- (HC) 実務や研究に活用できる専門知識や専門技術を身に付けている
 - ・専門科目及び卒業研究を修得する
- (HD) 主体的な活動を通し、創造的に課題に対応できる能力を身に付けている
 - ・インキュベーションワークを修得する

○カリキュラム・ポリシー

低学年は一般科目を中心とし、学年進行に伴い徐々に専門科目の比重を増加し、高学年は専門科目中心となる楔形のカリキュラムとする。また、初年次から、全学科に共通する専門科目を設ける。なお、評価はシラバスに示す評価割合に従って行い、60点以上を合格とする。

- (HA) 豊かな教養と国際性を修得するために、人文・社会科学系科目を設ける
- (HB) 工学に関連する基礎知識を修得するために、自然科学系科目を設ける
- (HC) 専門分野の課題に対応できる能力を修得するために、共通専門科目と専門科目を設ける
- (HD) 社会のニーズを捉え、創造的に課題に対応できる能力を修得するために、総合的な科目を設ける

○アドミッション・ポリシー（1年次入学、3年次編入学、4年次編入学で共通）

呉高専は、次のような人を待っています。

- ・確かな基礎学力を持ち、ものづくりに興味のある人
- ・主体的かつ積極的に行動できる人
- ・コミュニケーション力のある人

本科と専攻科の

本科

1年 2年 3年 4年 5年

機械工学科

電気情報工学科

環境都市工学科

建築学科

「地域から世界へ、人類の幸福に貢献する人材であれ」
 ～豊かな人間性と確かな技術力を持ち、人類の福祉と平和、
 国際社会の持続的発展に貢献するために学び続ける人材の育成～

本校は、かつての軍港「呉」にある高等専門学校として、人類の福祉と平和、国際社会の持続的発展へ貢献できる人材を育成することを重視し、変化を恐れない「柔軟性」と「創造性」、確かな「技術力」と「実行力」を持ち、自ら学び続ける人材を育成することを目指す。

関係

専攻科

1年 2年

プロジェクト
デザイン
工学専攻

専攻科

○教育目的

豊かな人間性と国際性を持ち、学修してきた専門分野を深めながら、複合的な素養を身に付け、多様性を涵養し、プロジェクトをデザインできる人材を育成する。

○専攻の教育目的

- ・プロジェクトデザイン工学専攻 学修してきた専門分野を深めながら、複合的な素養を身に付け、多様性を涵養し、プロジェクトをデザインできる人材の育成

○学習・教育目標

- (SA) 豊かな教養と倫理観により、国際的に行動できる能力の修得
- (SB) 工学に関連する応用能力の修得
- (SC) 専門分野の課題を解決できる能力の修得
- (SD) 社会のニーズを捉え、異分野と協働して課題を解決できる能力の修得

○ディプロマ・ポリシー

※ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー中の (SA) ～ (SD) は、学習・教育目標とそれぞれ対応しています。

学習・教育目標に沿って設けた授業科目を履修し、以下の項目にあげる知識・能力を身に付け、62単位以上を修得するとともに、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格し、学士（工学）を取得する。

- (SA) 技術者として豊かな教養と倫理観、自らの考えを的確に伝えられるコミュニケーション力を身に付けている
 - ・グローバル倫理、科学総合英語を含む教養科目を11単位修得する
- (SB) 専門分野に活用できる工学に関する応用能力を身に付けている
 - ・数学応用工学Ⅰ・Ⅱ、物理応用工学を含む専門基礎科目を10単位以上修得する
- (SC) 実務や研究に活用できる専門分野に関する応用能力を身に付けている
 - ・インターンシップを含む専門科目を30単位以上修得するとともに、研究成果を学協会で発表する
- (SD) 修得した知識や技術を活用し、異分野と協働して課題を解決できる能力を身に付けている
 - ・プロジェクトマネジメント、プロジェクトデザイン工学演習を含む科目を11単位修得する

○カリキュラム・ポリシー

本科で修得した主専攻となる専門分野の知識や技術を深めるとともに、他の専門分野の知識や技術を取り入れながら、異分野と協働してプロジェクトをデザインするための能力を身に付けることができるカリキュラムとする。なお、評価はシラバスに示す評価割合に従って行い、60点以上を合格とする。

- (SA) 豊かな教養と倫理観により、国際的に行動できる能力を修得するために、人文・社会科学系の教養科目を設ける
- (SB) 工学に関連する応用能力を修得するために、専門基礎科目を設ける
- (SC) 専門分野の課題を解決できる能力を修得するために、専門科目を設ける
- (SD) 社会のニーズを捉え、異分野と協働して課題を解決できる能力を修得するために、総合的なプロジェクトのデザインを実践する科目を設ける

○アドミッション・ポリシー

呉高専は、次のような人を待っています。

- ・技術者として必要な教養とコミュニケーション力を身に付けている人
- ・専門分野に関する知識と技術を持ち、ものづくりの技術を身に付けている人
- ・課題を解決するために、主体的かつ積極的に行動できる人

Realize Your Dream

Realize Your Dream
君と共に創る



教育改革の成果

平成 28 年 12 月 18 日 (日)

全国高専デザコン・構造デザイン部門で最優秀賞を獲得しました！

毎年恒例の全国高等専門学校デザインコンペティション（通称：デザコン）が 12 月 17 日～18 日に高知市で開催されました。デザコンは今年で 13 回目を迎える全国の高専生を対象とした大会で建築学科からは構造デザイン部門に 2 チーム 12 名が出場しました。

構造デザイン部門では、銅線を使った軽量で強いブリッジを作成し、その耐荷力とデザインを競います。全国から集まった 60 作品の中で、呉高専のチームは見事 1 位と 3 位に入賞し、最優秀賞（国土交通大臣賞）と優秀賞を受賞しました。呉高専がデザコンで最優秀賞を受賞するのは他部門も含めて今回が初めてです。



平成 28 年 10 月 31 日 (月)

呉信用金庫主催「高校生イラスト」にて 7/445 点の優秀賞に選ばれました

今年のイラストのテーマは『未来の友達』ということで、私は携帯電話の機能を持ったキャラクターを描かせていただきました。携帯依存症という言葉ができるほど携帯と一緒にいる時間が長いのなら、友人になれるのではないかと考えたからです。

親しみやすさをだすため、顔をつけ、近未来を表現するために点描でプログラムを描いた所、審査員の方からシュールという評価をいただきました。光栄です。

『未来の友達』というテーマから、未来のこと、今の自分の友人のことについて考える良い機会となりました。応募のきっかけをくださった高松先生、私に賞を与えてくださった呉信用金庫様、いつも私を助けてくれる友人達に心から感謝いたします。



平成 28 年 10 月 19 日 (水)

インキュベーションワーク「写真技法探究」雑誌アサヒカメラの月例コンテストに入選しました！

建築学科 5 年矢野遥香さんの作品「視線」が、雑誌アサヒカメラ月例コンテストのファーストステップ部門に入選し、アサヒカメラ 11 月号（10 月 20 日発売）に掲載されました。

また、環境都市工学科 4 年佐藤翔生君の作品「Holiday」もワンステップアップに選ばれ、11 月号の One Step Up 欄に掲載されました。

今回ファーストステップ部門の応募総数は 774 点で、特選 5 名、入選 15 名、ワンステップアップ 4 名の作品が掲載されています。

「写真技法探究」では 2、3 年生は CAPA の月例フォトコンテスト、4、5 年生はアサヒカメラの月例コンテストに応募しています。これまで次点や予選通過はありましたが、やっと入選して作品が雑誌に掲載されました。

学生たちの頑張りをぜひご覧いただければと思います。



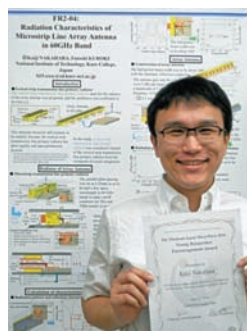
矢野遥香さん
「天王洲の夜」

平成 28 年 6 月 11 日 (土)

専攻科 2 年生、今年も Young Researcher Encouragement Award” 受賞

Thailand-Japan Microwave 2016 で先端電磁波システム研究室専攻科 2 年中原海司君が講演した研究内容に対して、表題の名誉ある賞が授与されました。本賞はタイ王国キングモンクット工科大学で開催された国際会議における若手研究者 44 名の論文の内、「優秀」と評価された 4 名に贈られたもので、昨年度の同研究室青木勝義君（現専攻科 2 年）に続き、呉高専からは 2 年連続の受賞となりました。

中原君の研究は、ミリ波というペンシルビームが実現可能な特殊電磁波を用い、簡単な構造でありながら電子的にアンテナの放射方向が掃引でき、検知物体が 2 次元的に把握できるというもので、今後この技術は研究室の後輩たちに引き継がれ、3 次元検知物体認識に応用される予定です。



Realize Your Dream 教育改革の成果	
【2016 年度】	27 件
3 月	若者ビジネスコンテスト 2016：乃木坂賞
3 月	第 45 回（平成 28 年度）くれオーク賞
3 月	The 5th International Smart City Workshop：最優秀ポスター発表賞
3 月	平成 28 年度国立高専機構学生表彰：理事長表彰
2 月	日本高専学会研究奨励賞：最優秀賞
2 月	全国高校生マイプロジェクトアワード 2016 北九州大会：学校部門第 1 位（全国大会出場）
1 月	第 15 回キャンパスベンチャーグランプリ中国：奨励賞
1 月	ぐっとずっと。エネルギー住宅作品コンテスト 2016：学生部門佳作（第 3 席）
1 月	アサヒカメラ月例コンテスト：ファーストステップ部門入選（2 月号に掲載）
1 月	2017 年度防災教育チャレンジプラン実践団体に採択
1 月	International Conference of "Science of Technology Innovation 2017"：優秀ポスター発表賞／優秀質疑賞／ワークショップ最優秀賞
12 月	第 13 回全国高専デザコン：構造デザイン部門最優秀賞（国土交通大臣賞）
12 月	第 13 回全国高専デザコン：構造デザイン部門優秀賞
11 月	2016 みんなの夢・アイデアコンテスト：審査員長賞／大和ミュージアム館長賞（高校・大学の部）
11 月	CAPA 月例フォトコンテスト：入選（学生の部）（12 月号に掲載）
11 月	第 43 回五三会建築設計競技：最優秀賞（最年少受賞）
11 月	第 5 回河野裕子短歌賞（青春の歌の部）：選者（島田幸典）賞／京都府教育長賞
10 月	第 20 回くれしん高校生イラスト：優秀賞
10 月	第 20 回 HiBIS インターネットビジネスフォーラム 2016：優秀賞（学生の部）
10 月	アサヒカメラ月例コンテスト：ファーストステップ部門入選（11 月号に掲載）
10 月	全国高専第 27 回プロコン競技部門：優勝候補 1 位賞
10 月	第 6 回高校生による現象数学学研究会発表会：審査員特別賞
8 月	鉄道模型コンテスト 2016：優秀賞（大学生モジュール部門）
8 月	第 12 回関数グラフアートコンテスト：優秀賞
6 月	2016 Thailand-Japan Microwave：Young Researcher Encouragement Award 受賞
6 月	呉地域 OCN 会議「学生の夢実現プロジェクト」に採択：A 部門 1 件／B 部門 2 件
5 月	第 68 回土木学会中国支部研究発表会：若手優秀発表者（3 名）

【2015 年度】	21 件
【2014 年度】	11 件
【2013 年度】	11 件

機械工学科

Department of Mechanical Engineering



機械工学科の紹介

私たちの身の回りには、自動車、船舶、航空機などの輸送機械、パソコン・テレビなどの家電製品、電気エネルギーを作り出す大型プラント施設など、さまざまな機械があふれています。機械工学は、金属やセラミックスなどの材料に命を吹き込み、人々に役立つものを作り出すことにより、人類の夢を現実のものへと導いてきました。最近では、電気モータとエンジンを組み合わせたハイブリッド車が商品化され、時速 500km で走行するリニア新幹線の実用化も目前に迫っています。また、人間のように動くヒューマノイド型ロボット、人体の中を動けるような小さな機械（マイクロマシン）、ロケット技術など宇宙開発に関する研究・開発も進められており、その中心的役割を担っているのが機械工学です。さらに、CO₂ による地球温暖化などの環境問題、原子力に替わる代替エネルギー問題を解決するために、機械工学の知識・技術を発展・応用させることが期待されています。

機械工学科は「ものづくりを通して社会の発展に貢献できる人」を育成するため、機械の材料・強度・熱・流体エネルギー、制御、加工などを学び、最新の知識と技術を兼ね備えた有能な技術者を産業界に送り出すよう心がけています。卒業生は、機械工学の分野は言うまでもなく、電気、化学、建設などあらゆる分野の企業で活躍しています。

機械工学科の教育目的

ものづくりを通して社会の発展に貢献できる機械技術を有する人材の育成

在学中に取得を推奨する資格

機械設計技術者（3級）／応用情報技術者／基本情報技術者／危険物取扱者（甲種、乙種）／ITパスポート

主な実験・実習設備

走査型電子顕微鏡／金属顕微鏡／硬さ試験機／万能材料試験機／ねじり試験機／計装化シャルピー衝撃試験機／表面粗さ測定器／四球式摩擦摩耗試験機／熱交換器実験装置／自然対流熱伝達実験装置／水力学実験装置／レイノルズ実験装置／風洞実験装置／CNC 旋盤／マシニングセンタ／3D プリンタ／画像処理システム／多関節ロボット／筋電計／三次元 CAD・CAM 装置



風洞実験装置



3Dプリンタによる造形



3Dプリンタ

機械工学科のカリキュラムの特徴

機械工学科のカリキュラムは、あらゆる産業分野の設計及び製作に必要な基礎的科目を設けています。低学年では、二次元CADによる「機械設計製図」、CNC旋盤やマシニングセンタによる「工作実習」を学びます。特に、3年次の「工作実習」では、学生自らが設計したUFOキャッチャーなどの総合実習に取り組むとともに、学内ロボットコンテストを開催し、設計から加工までの体験的な学習ができるように配慮されています。高学年では、三次元CADによる「機械設計製図」、3Dプリンタによる造形や電子顕微鏡による材料観察などの「工学実験」が設けられています。講義科目としては、機械工学の主要科目である「材料力学」、「熱工学」、「流体工学」、「機械力学」を中心に学び、5年次では「卒業研究」に取り組むことにより、専門知識を深めるとともに、自主的に課題に取り組む能力を身に付けることができます。

※数字は単位数 青字は選択科目

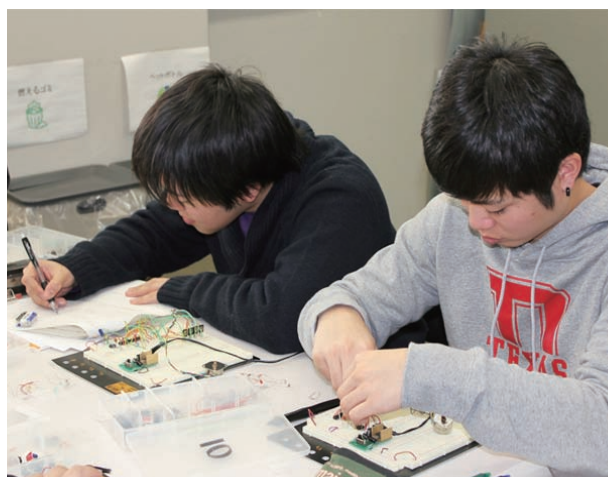
1年	2年	3年	4年	5年
情報リテラシー 1	材料学 1	応用物理 2	応用数学Ⅰ 2	卒業研究 9
機械設計製図 2	加工学 1	材料力学Ⅰ 2	確率統計 2	情報処理Ⅱ 2
工作実習 3	機構学 1	材料学 1	応用物理 2	技術者倫理 2
	機械設計概論 1	加工学 1	情報処理Ⅰ 1	工業英語 1
	機械設計製図 2	機械設計製図 3	情報処理Ⅱ 1	機械力学 2
	工作実習 3	電気工学 1	材料力学Ⅰ 2	熱工学 2
		論理回路 1	材料学 2	熱機関 2
		工作実習 3	熱工学 2	流体工学 2
			流体工学 2	経営工学 2
			加工学 2	制御工学 2
			機械要素設計 2	工学実験 2
			機械設計製図 3	ナノテクノロジー 2
			計測工学 2	システム工学 1
			メカトロニクス 2	材料力学Ⅱ 1
			工学実験 2	先端材料学 1
			応用数学Ⅱ 1	トライボロジー 1
			校外実習 1	創造製作 1



マシニングセンタによる加工



三次元CAD/CAM



工学実験

電気情報工学科

Department of Electrical Engineering and Information Science



電気情報工学科の紹介

医薬品開発や化学プラント製造あるいは食の安全など、一見関係なさそうな分野まで電気・電子技術はいろいろな形で関わっています。電気情報工学科では、将来どのような職業に就いても対応できるような技術者の育成を行っています。卒業後は、鉄鋼、自動車、電機などの生産技術分野、電力、ガス、水道、鉄道、通信設備などの保全技術分野、ネットワークやシステム開発などのIT技術分野など、ハードウェア・ソフトウェア両面にわたる幅広い分野への道が開かれています。

本学科のめざす教育は、研究開発とものづくり現場を結ぶことができる人材の育成と、ここで学べて良かった、面白かったという満足度が得られる授業や実験・実習です。そのために「マイコンを核としたデジタル技術によるものづくり実践」に力を入れて取り組み、1年次から5年次まで各学年ごとの実験・実習あるいは卒業研究を通じて「マイコンによるものづくり」を行います。さらに電子回路シミュレータを用いた「アクティブラーニングの実践」にも力を入れています。放課後希望者参加による「3Dプリンタを用いたものづくり実践」では、アイデア発明コンテストへの挑戦も行っています。

電気情報工学科の教育目的

絶え間なく進化する科学技術に対応できる電気情報技術を有する人材の育成

在学中に取得を推奨する資格

電気主任技術者（2種、3種）／応用情報技術者／基本情報技術者／陸上特殊無線技士（第1級、第2級）／デジタル技術検定（情報部門）（2級）

主な実験・実習設備

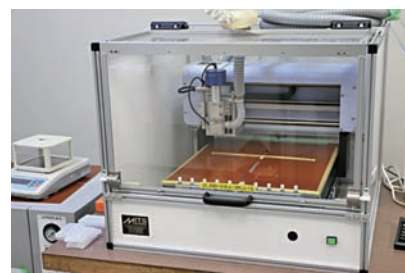
情報処理演習室パソコン 50 台／NI-ELVIS / FPGA 教育実習システム／高精度多層回路基板自動作成装置／SMD（表面実装部品）高精度実装システム／超高周波回路解析装置／超高周波信号解析装置／超高周波電力計／超高速オシロスコープ／高安定多機能信号源／ファブリペロ光波長計測装置／光波帯信号解析装置／ロボット制御実験装置／シーケンストレーニングボード／インバータ実習装置／パワエレ実験システム／高温焼結装置／ガス置換焼結装置／サーモグラフィカメラ



HDLによる回路設計



ものづくり実習



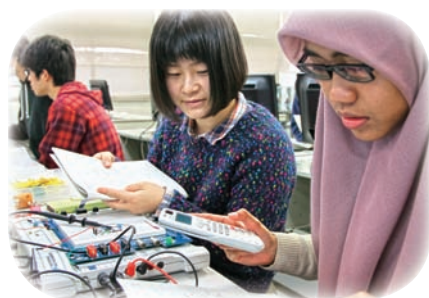
高精度多層回路基板自動作成装置

電気情報工学科のカリキュラムの特徴

電気情報工学科のカリキュラムは、低学年では基礎的な専門科目の学習に重点が置かれ、将来どんな産業界に身を置いても対応できるような技術者の育成を行っています。4年次からはエネルギー制御コースと情報通信コースに分かれ、それぞれの分野の応用科目を修得します。演習・実習では ICT 機器を多く活用します。たとえば電子回路シミュレータを2年次から使い始め、3年次で OP アンプ回路、デジタル論理回路のシミュレーションを行い、4・5年次では電子回路やパワーエレクトロニクスの授業でアクティブラーニングを実践します。また、2年次から数値計算ソフトウェアの MATLAB を使い、2D・3D グラフのプロットやスクリプトの作成を行い、4・5年次では制御工学、信号処理のシミュレーションに用い、卒業研究ではモデルベースデザイン開発を実践します。本学科独自の e - ラーニング教材も充実しており、さらに他の高専や企業と連携した e - ラーニング教材による学習も行います。

※数字は単位数 青字は選択科目

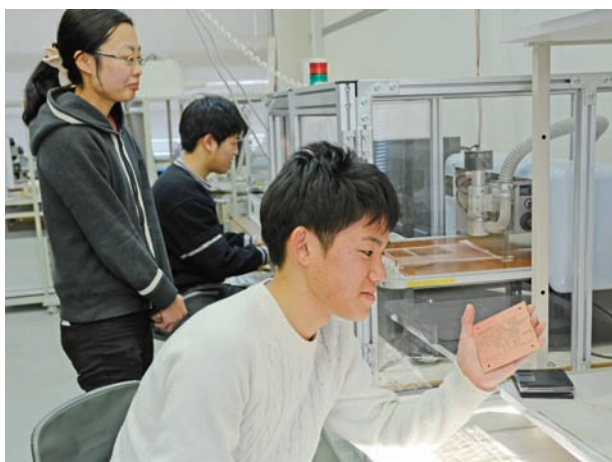
1年		2年		3年		4年		5年	
ものづくり実習	1	情報処理Ⅱ	2	応用物理	2	2コース共通科目			
電気基礎	2	電気数学	1	情報処理Ⅲ	2	応用数学 A	2	卒業研究	9
電気製図	1	電気・電子計測	1	電気数学	1	応用数学 B	2	技術者倫理	1
情報処理Ⅰ	2	電気回路	2	電気・電子計測	1	確率統計 A	2	情報理論	1
		電気情報工学実験	3	電気電子材料	1	確率統計 B	2	応用電子回路	1
				電気回路	2	電気数学	1	電子デバイス	1
				電気情報工学実験	3	電気回路	2	パワーエレクトロニクス	1
				電気磁気学	2	電気磁気学	2	工業英語	1
						電子工学	2	エネルギー制御コース専門科目	
						電子回路	2	エネルギー制御工学実験	4
						制御工学	2	エネルギーネットワーク工学	2
						システム工学	1	エネルギー変換工学Ⅱ	2
						校外実習	1	エネルギー発生工学	2
						エネルギー制御コース専門科目		シーケンス制御	2
						エネルギー制御工学実験	4	電磁界理論	2
						エネルギー変換工学Ⅰ	2	超高周波工学	2
						通信工学	2	信号処理	1
						IC設計工学	1	情報ネットワーク	1
						アルゴリズム	1	情報ネットワーク	1
						情報通信コース専門科目		情報通信工学実験	4
						エネルギー変換工学Ⅰ	2	電磁界理論	2
						情報通信工学実験	4	超高周波工学	2
						通信工学	2	情報ネットワーク	1
						IC設計工学	1	信号処理	1
						アルゴリズム	1	エネルギーネットワーク工学	2
						エネルギー変換工学Ⅱ	2	エネルギー変換工学Ⅱ	2
						シーケンス制御	2	エネルギー発生工学	2
								シーケンス制御	2



NI ELVIS を用いた実習



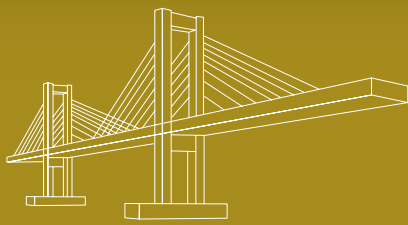
パワーエレクトロニクス実験



LSI 回路設計製作実験



情報処理Ⅰ



環境都市工学科

Department of Civil and Environmental Engineering



環境都市工学科の紹介

環境都市工学とは、自然とともに生きながら、人々が心豊かに快適な生活を送るのに必要な社会基盤を整備するためには欠かせない「市民のための工学」です。環境都市工学科では、環境問題に対応できる幅広い視野を備えた高度な知識と技術を有し、社会のために役立つ技術者の育成を目標としています。

自らのアイデアを地域政策や国の事業などとして具体化させることのできる「公務員」になりたい人、地図に残るような大規模な構造物を設計し、つくることのできる「建設技術者」になりたい人、大地震や台風などによる災害に強い国土やまちをつくる「防災技術者」になりたい人、さまざまな環境問題を解決することができる「環境技術者」になりたい人、都市の計画や設計ができる「都市計画技術者」になりたい人にとって最適な学科です。

環境都市工学科の教育プログラム“環境都市工学プログラム”は、JABEE（日本技術者教育認定機構）に認定されており、国際的な水準の内容になっています。

卒業後は、国公立大学3年次や専攻科への進学の他に、公務員、大手ゼネコン、建設コンサルタント、道路・鉄道・電気・ガスなどの公益企業を中心とする土木分野に加えて、環境・生産管理の業界へも就職しています。このように環境都市工学科の卒業生は、幅広い分野で、国土と社会、生活環境の担い手として活躍しています。

環境都市工学科の教育目的

豊かで快適な自然環境や社会基盤を整備する技術を有する人材の育成

在学中に取得を推奨する資格

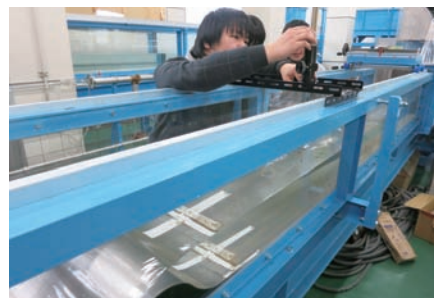
技術士第一次試験（技術士補）／土木学会土木技術検定／土木施工管理技能検定（学科試験、2級）／公害防止管理者（主任、第1種～第4種）／ファッションコーディネート色彩能力検定（1級、2級）／応用情報技術者／基本情報技術者

主な実験・実習設備

アムスラー万能試験機(500kN)／加圧試験機(1000 kN)／貝殻破砕機／傾斜可変水路・固定水路／レイノズル数測定装置／造波・波浪実験装置／空圧式圧密試験機／飽和・不飽和三軸圧縮試験機／空圧式振動三軸試験機／CBR試験機／落射蛍光顕微鏡／水質分析装置／化学・生物発光測定機／DNA・タンパク質解析装置／セオドライト／オートレベル／トータルステーション



測量実習



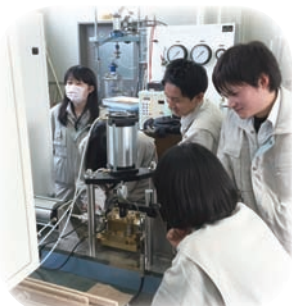
傾斜可変水路による水理実験

環境都市工学科のカリキュラムの特徴

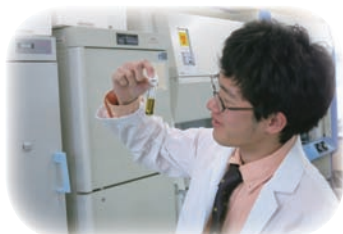
環境都市工学科のカリキュラムは、環境との調和を図った社会基盤施設の計画・設計から建設・管理にいたるまでの専門知識と最新の技術を学ぶことができるように構成されています。このカリキュラムでは、社会基盤施設である橋、トンネル、道路、鉄道、公園、上下水道、ダム等を建設する技術に加え、大気、水質、土壌、微生物、都市計画、防災、測量など幅広い専門知識と、実務を意識した実習・演習などでその活用方法を学びます。1年次では専門科目を学ぶための基礎として、情報リテラシーやものづくり実習、測量等を学び、2年次になると建設材料、自然生態学、環境工学等の専門科目を学び、3年次では構造力学、土質力学、水理学、水環境工学等の科目を学びます。4年次では、それら専門科目に加え、都市計画や遺伝子工学等の専門科目、設計製図や土木CADなどの実習・演習科目を学びます。5年次では卒業研究で社会のニーズを捉え、最先端の技術開発に取り組むとともに、創造的に課題に対応できる能力を修得するためエンジニアリングデザインを学びます。このほかに多くの応用的な専門科目が用意されており、学生は自分の希望する進路に応じて科目を選択できます。このようなカリキュラムを通じて各分野におけるスペシャリストを養成し、地域社会に貢献できる人材の育成を図っています。

※数字は単位数 青字は選択科目

1年		2年		3年		4年		5年	
測量	1	測量	1	応用物理	2	応用数学	2	卒業研究	9
情報リテラシー	1	コンクリート工学	2	構造力学	2	実験実習	2	エンジニアリングデザイン	3
実験実習	2	建設材料	1	水理学	2	設計製図	2	技術者倫理	1
ものづくり実習	1	環境工学	1	土質力学	2	構造力学A	2	情報処理	1
		自然生態学	1	水環境工学	2	構造力学B	2	交通計画A	2
		実験実習	3	実験実習	3	水理学A	2	河川工学	1
				情報処理	1	水理学B	2	防災工学ⅠA	2
						土質力学A	2	環境都市工学演習Ⅱ	1
						土質力学B	2	環境分析化学	1
						鋼構造A	2	交通システム工学	1
						環境保全A	2	社会基盤計画学Ⅱ	1
						コンクリート構造	2	防災工学Ⅱ	1
						建設施工	2	環境生物学	1
						都市計画	1	微生物学Ⅱ	1
						社会基盤計画学Ⅰ	1	応用測量	1
						河川工学	1	工業英語	1
						遺伝子工学概論	1	環境都市工学演習Ⅲ	1
						土木CAD	1	環境都市工学演習Ⅳ	1
						環境都市工学演習Ⅰ	1		
						工業英語	1		
						校外実習	1		



土質実験（一面せん断試験）



卒業研究（衛生工学研究）



微生物培養実習



エンジニアリングデザイン



建築学科

Department of Architecture and Structural Engineering



建築学科の紹介

建築学科では、現代社会のニーズに応じて、個人住宅から都市全体にいたるすべての生活環境を対象に、快適で魅力あるものづくりを目指します。そのための基礎知識である理数系や工学系の科目はもちろん、歴史、文化、芸術などの幅広い分野も学びます。加えて建築学の専門科目も、基礎から応用まで隅々まで学びます。

最近の設計演習や構造実験では最先端機器を積極的に活用しています。その結果、コンピュータで設計し、レーザー加工機を活用して製作した構造物作品が2016年の全国高専デザインコンペティションで最優秀賞を獲得しました。また3DCADでデザインした家具を実寸で制作し、呉市内の歩道に設置した例もあります。さらにエコ住宅の設計に役立つサーマルマネキンを使って呉地域の住環境分析に役立つ研究もしています。

本学科の卒業生は、豊富な専門的知識と積極的な行動力により、実力優先の社会の期待に十分に答え、建設現場で活躍する総合建設業や設計事務所をはじめ幅広い分野で高い評価を受けて活躍しています。卒業後すぐに「二級建築士」、卒業後4年間の実務経験を経て「一級建築士」を受験でき、多くの卒業生が合格しています。4学科の中で最も女子学生の比率が高く、平均約4割であるのも建築学科の特徴です。

建築学科の教育目的

安全で快適な生活空間を創造する技術を有する人材の育成

在学中に取得を推奨する資格

宅地建物取引主任者／インテリアコーディネーター／福祉住環境コーディネーター（2級）／測量士（測量士、測量士補）
※卒業後二級建築士の受験が可能

主な実験・実習設備

3Dプリンタ（UV硬化樹脂系）／レーザー加工機／サーマルマネキン／人工気候室／サーモグラフィ／材料強度試験装置／構造物試験及び測定装置／材料試験機器／データ収録・解析装置／超仕上げかな盤／昇降盤／帯のこ盤／音響測定装置／温熱環境測定装置／空気状態測定装置／光学関係測定装置／設計製図機器／デザイン及びグラフィックのためのコンピュータシステム／各種建築模型／試験体製作及び実験装置製作機器／測量実習機器／呼吸代謝分析装置



スマートボードによる授業



レーザー加工機



3Dプリンタ

建築学科のカリキュラムの特徴

建築学科のカリキュラムは、建築技術者として必要な専門知識や建築技術、創造的なデザイン力を身に付けることができるように構成されており、1年次から造形や設計製図などの基礎科目を学び、高学年になると建築設計や建築構造、建築環境に関する専門科目を設置し、効率よく知識が修得できるようにしています。加えてコンピュータを使って建築の図面を描く3DCADや、立体的な完成予想図を描くCGの技術の修得のための科目も設け、学外の設計競技（コンペティション）にも十分に通用する実力が修得でき、卒業後の就職・進学に備えることができます。

またコミュニケーション力の養成にも注力し、スマートボードとCGを駆使して学生が創った作品をプレゼンテーションする授業や、国際性を養うために教員が英語で行う建築の専門科目の授業もあります。

本カリキュラムは、一級建築士資格取得試験の学科要件である「国土交通大臣が指定する建築に関する科目（指定科目）」の単位数を十分に満たしており、卒業後所定の実務経験を積むことで、大学卒業生と同年齢で一級建築士を取得することが可能です。二級建築士の受験に関しては卒業と同時に受験可能ですので、大学生より二年早い資格取得が可能です。

※数字は単位数 青字は選択科目

1年	2年	3年	4年	5年
情報リテラシー 1	建築構法Ⅱ 1	応用物理Ⅰ 2	情報処理Ⅰ 2	卒業研究 9
建築概論 1	建築計画Ⅰ 1	CAD基礎 1	CAD・CG 2	情報処理Ⅱ 2
建築構法Ⅰ 1	建築設計製図Ⅱ 3	建築計画Ⅱ 1	建築計画Ⅲ 2	建築防災工学 1
建築設計製図Ⅰ 1	造形Ⅱ 1	建築設計製図Ⅲ 4	都市計画 2	建築設備 2
ものづくり実習 1	建築構造力学Ⅰ 2	建築史Ⅰ 2	建築設計製図Ⅳ 4	環境設計 2
造形Ⅰ 1	建築構造力学演習 1	建築構造力学Ⅱ 2	建築史Ⅱ 2	RC構造設計Ⅰ 2
		建築材料Ⅰ 2	建築意匠 2	RC構造設計Ⅱ 2
			建築構造力学Ⅲ 2	建築法規 2
			建築材料Ⅱ 2	建築生産 2
			鉄筋コンクリート構造 2	測量学Ⅰ 1
			鋼構造 2	技術者倫理 1
			建築環境工学 2	● 講読演習 1
			ゼミナール 1	○ 技術者資格演習 1
			工業英語 1	鋼構造設計 1
			● 応用物理Ⅱ 1	建築工学実験 1
			○ インテリア概論Ⅰ 1	建築地盤工学 1
			● 応用数学 2	建築設計製図Ⅴ 2
			○ 福祉住環境Ⅰ 1	建築環境実験 1
			○ 不動産概論Ⅰ 1	
			校外実習 1	



全国高専デザインコンペティション最優秀賞獲得

※進学希望者は●の科目を、就職希望者は○の科目をそれぞれ選択履修することを基本とする



木造軸組模型（学生作品）



サーマルマネキン



サーモグラフィ

一般科目

General Education Program



一般科目の紹介

今日の科学技術者は幅広い常識と高度な専門知識を持つとともに、豊かな想像力と鋭い国際感覚を併せ持ち、専門分野の課題に対応できる人間であることが望まれています。高等専門学校はこのような人材の育成をめざして、5年間の一貫教育を行っている高等教育機関です。そして、この目的に沿うために一般教養科目が置かれ、教育課程が編成されています。

人文・社会科学系の科目は人間活動のもとになる豊かな教養の修得を目指します。国語、英語・外国語ではコミュニケーション能力の養成、語学を通して日本及び世界の文化・社会などへの関心を深め、国際性を高めることを目指します。社会では世の中の仕組みや歴史・地理・法学などを学ぶことにより、ものごとを総合的な視点に立って判断するための基礎を身に付けます。保健・体育では各種のスポーツを通じてルールやマナーを守ることや協調性を修得します。

自然科学系の科目（数学・理科）は工学（専門）の基礎となるものです。数学では論理的思考能力、基本的な計算力・応用力を、理科では自然現象の背後にある法則や理論を学びます。

本科の教育目的

豊かな教養と国際性を持ち、それぞれの専門分野において実験・実習・演習を重視した教育により工学に関する知識や技術を身に付け、各分野の課題に対応できる人材を育成する。

在学中に取得を推奨する資格

英検／工業英検／TOEIC／日本語検定／数学検定

主な実験・実習設備

真空排気装置／電磁誘導実験器具／電子比電荷測定器具／レーザー実験器／波動実験器／分光器／ストロボスコープ／ガイガー計数器／シンクロスコープ／デジタルマルチメータ／パーソナルコンピュータ／顕微鏡／吸光分光光度計／ガスクロマトグラフィ／イオン濃度計／超音波洗浄器／電気低温乾燥器／電子式水分計／偏光計／超純水装置／真空排気装置／サブギャップ光吸収スペクトル測定装置／精密切断機／振とう機／生物顕微鏡／グローブボックス／電子天秤／真空蒸着装置／コンピュータ支援語学演習装置



国際交流スカイプ授業



物理授業

一般科目のカリキュラムの特徴

一般科目のカリキュラムは、どの専門学科を選択するにしても共通して必要な一般教養と国際性（国語、社会、保健・体育、芸術、英語など）、工学に関連する基礎学力（数学、理科など）が養えるように配慮されています。そして、学年が進むにつれて一般科目の授業数が少なくなり、専門科目の授業を多く履修するようになります。教育内容は、基礎的な後期中等教育段階から始まり、次第に高度な高等教育段階へと発展して履修されていくようになります。今後いよいよその重要性が増していく語学の授業においてはCALLシステム（コンピュータ支援語学学習）やインターネット通話システム（スカイプ）を導入したPC演習室を利用するなど豊かな教育環境の下で授業が展開されています。さらに、学生が社会のニーズを捉え創造的に課題に対応できる能力を養うことを目的として学年・学科を問わず特定のテーマのもとグループごとに行う総合教育（インキュベーションワーク）を実施します。

※数字は単位数

1年	2年	3年	4年	5年
インキュベーションワーク 2	インキュベーションワーク 2	インキュベーションワーク 2	インキュベーションワーク 2	インキュベーションワーク 2
国語総合（現代文） 2	現代文 1	現代文 2	日本語表現法 1	哲学 1
国語総合（古典） 1	古典 1	現代社会 2	法学 1	保健・体育 1
社会科学入門 1	歴史 2	地理 1	保健・体育 1	英語 2
歴史 2	線形代数Ⅰ 3	線形代数Ⅱ 1	上級コミュニケーション英語A 2	第二外国語 2
基礎数学AⅠ 2	微分積分Ⅰ 3	微分積分Ⅱ 3	上級コミュニケーション英語B 2	ライフサイエンス・アースサイエンスA*1 1
基礎数学AⅡ 2	物理 3	微分方程式 1	英語 2	
基礎数学B 2	化学 2	化学 1	第二外国語 2	
物理 2	保健・体育 2	保健・体育 2		
化学 2	コミュニケーション英語Ⅱ 3	コミュニケーション英語Ⅱ 2		
保健・体育 3	英語表現Ⅱ 2	英語表現Ⅱ 2		
芸術 1				
コミュニケーション英語Ⅰ 3				
英語表現Ⅰ 2				
ライフサイエンス・アースサイエンスB*2 1				

*1 ライフサイエンス・アースサイエンスA：機械工学科、電気情報工学科、建築学科

*2 ライフサイエンス・アースサイエンスB：環境都市工学科



体育授業



短期留学生との交流授業



国語授業



芸術（美術）授業

専攻科

Advanced Course

プロジェクトデザイン工学専攻

Project Design Engineering



プロジェクトデザイン工学専攻の紹介

グローバル化とイノベーションが刻々と進み、激動する社会に対応する人材を育成するため、呉高専専攻科は、平成28年度に従来の2専攻「機械電気工学専攻」「建設工学専攻」から、複合型の1専攻「プロジェクトデザイン工学専攻」に改組しました。併せて定員も本科定員の25%と大幅に増やし、本科から専攻科まで連続した7年一貫教育の体制を強化しました。

プロジェクトデザイン工学専攻でめざすべき目的は大きく3つあります。ひとつは「本科で学修してきた専門分野を深めながら、複合的な素養」を身に付けること、二つ目は「自ら課題を見出し、企画から設計・製作までプロジェクト全体をデザインできる能力」を養うこと、三つ目は、それらのベースとなる「豊かな人間性と国際性を養い、多様性を涵養」することにあります。これらを実現すべく、カリキュラムはいろいろと工夫を凝らし、精選しています。本専攻ではこれらの教育を行うことにより、本科において孵化した「世界目線」の学生を、本格的に成長させることをめざしています。

なお、本専攻科は、大学改革支援・学位授与機構から特別適用専攻科として認定されており、平成29年度専攻科入学生から、特別研究の学内審査と修得単位の審査のみで「学士（工学）」の学位を取得できるようになりました。

プロジェクトデザイン工学専攻の教育目的

豊かな人間性と国際性を持ち、学修してきた専門分野を深めながら、複合的な素養を身に付け、多様性を涵養し、プロジェクトをデザインできる人材を育成する。

学習・教育目標

- (SA) 豊かな教養と倫理観により、国際的に行動できる能力の修得
- (SB) 工学に関連する応用能力の修得
- (SC) 専門分野の課題を解決できる能力の修得
- (SD) 社会のニーズを捉え、異分野と協働して課題を解決できる能力の修得

ディプロマ・ポリシー

※ディプロマ・ポリシー中の(SA)～(SD)は、学習・教育目標とそれぞれ対応しています。

学習・教育目標に沿って設けた授業科目を履修し、以下の項目にあげる知識・能力を身に付け、62単位以上を修得するとともに、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格し、学士（工学）を取得する。

- (SA) 技術者として豊かな教養と倫理観、自らの考えを的確に伝えられるコミュニケーション力を身に付けている
 - ・グローバル倫理、科学総合英語を含む教養科目を11単位修得する
- (SB) 専門分野に活用できる工学に関する応用能力を身に付けている
 - ・数学応用工学Ⅰ・Ⅱ、物理応用工学を含む専門基礎科目を10単位以上修得する
- (SC) 実務や研究に活用できる専門分野に関する応用能力を身に付けている
 - ・インターンシップを含む専門科目を30単位以上修得するとともに、研究成果を学協会で発表する
- (SD) 修得した知識や技術を活用し、異分野と協働して課題を解決できる能力を身に付けている
 - ・プロジェクトマネジメント、プロジェクトデザイン工学演習を含む科目を11単位修得する

プロジェクトデザイン工学専攻のカリキュラムの特徴

本専攻のカリキュラムは、本科で修得した主専攻となる専門分野の知識や能力を深めるとともに、他の専門分野の知識や技術を取り入れながら、異分野と協働してプロジェクトをデザインするための能力を身に付けることができるように構成されています。すなわち、豊かな教養と倫理観により、国際的に行動できる能力を修得するために人文・社会科学系の教養科目を設け、工学に関連する応用能力を修得するために専門基礎科目を設けています。また、専門分野の課題を解決できる能力を修得するために専門科目を設け、社会のニーズを捉え、異分野と協働して課題を解決できる能力を修得するために、総合的なプロジェクトのデザインを実践する科目を設けています。

数字は単位数 青文字は選択科目

1年		2年	
教養科目		教養科目	専門科目
科学英語表現法Ⅰ	1	日本語表現法	2
科学英語表現法Ⅱ	2	科学総合英語	2
グローバル倫理（連携教育）	2	プロジェクトマネジメント	2
経営マネジメント（連携教育）	2	専門基礎科目	
専門基礎科目		数学応用工学Ⅱ	2
数学応用工学Ⅰ	2	生命科学（連携教育）	2
物理応用工学（連携教育）	2	プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅡ	2
プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠ	2	複合工学実験	2
専門科目		化学応用工学	2
インターンシップ	10	数値計算法	2
応用研究	4	資源循環工学	2
高度専門特別講義Ⅰ [※]	2	量子力学	2
建築設計演習	2		
		プロジェクトデザイン工学演習	3
		CAD／CAM・CAE	2
		特別研究	6
		高度専門特別講義Ⅱ [※]	2
		福祉工学	2
		再生可能エネルギー工学	2
		工業デザイン論	2
		環境人間工学	2

※高度専門特別講義Ⅰは下記から1科目選択

機 械 系：

数値流体工学、弾性設計学、医用工学、
メカトロニクス特論

電気情報系：

電磁波システム工学、アドバンスコントロール、ソフト
コンピューティング、インフォメーションテクノロジー

環境都市系：

応用解析法、環境地盤力学、テラメカニクス

建 築 系：

都市・地域計画、各種コンクリート構造、近代デザイン史

※高度専門特別講義Ⅱは下記から1科目選択

機 械 系：

振動工学、機械要素、システム制御

電気情報系：

マイクロエレクトロニクス、
モーターエレクトロニクス、
材料物性学、バイオメトリクス

環境都市系：

建設材料論、応用水理学

建 築 系：

耐震構造、人間温熱生理、環境デザイン



プロジェクトデザイン工学総合ゼミの授業風景



高齢期疑似体験実習

連携教育

連携教育は、各高専の教員が協力してそれぞれの専門性と能力を補い合い、良質な教育コンテンツを提供することを主な目的として実施されています。開講科目は、グローバル倫理、経営マネジメント、数学応用工学Ⅰ、物理応用工学、生命科学、化学応用工学の6科目で、このうち本校では4科目を受講しています。授業ではビデオ会議システムと電子黒板を活用し、各高専を双方向に結び、遠隔地の学生が討論するワークも実践しています。平成27年度に呉・徳山・宇部・北九州の4高専で始められた連携教育は、平成28年度に広島商船が、平成29年度には大島商船が加わり、6高専で実施しています。



ビデオ会議システムによる遠隔授業



ネットワーク対応スマートボードを使った講義

長期インターンシップ

本専攻では長期インターンシップを重視し、1年前期（5～7月）に10単位の必修科目として実施しています。インターンシップでは、企業や研究機関等で現実の課題に取り組むことにより、社会で通用する知識を確認し、それらをさらにブラッシュアップするとともに、不足している知識や能力を知り、新たに身に付けるべき課題を見出すことにもなります。また、企業等における時間感覚やコスト感覚、マネジメント感覚を養うとともに、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を磨くことにより、人間力を育成することも大きな目的としています。これらの経験を積むことにより、本専攻でめざしているプロジェクトデザイン教育の重要性を再認識し、学習に対するモチベーションを向上させるとともに、応用研究や特別研究がより活性化することも目的としています。



インターンシップ事前研修



インターンシップ報告会



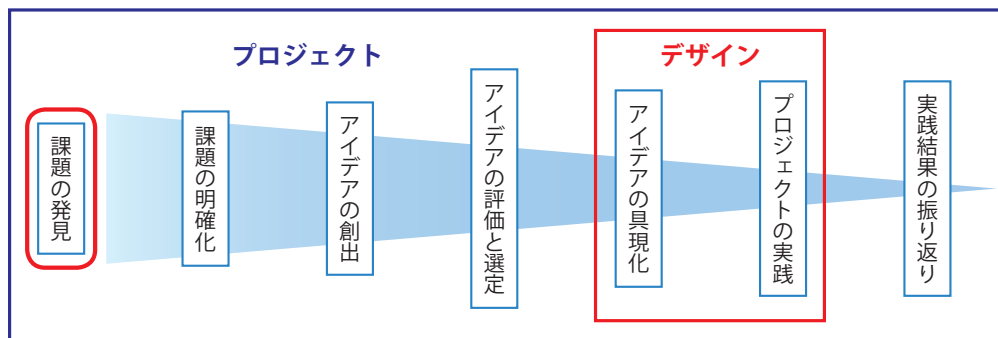
実習先工場で回路試作



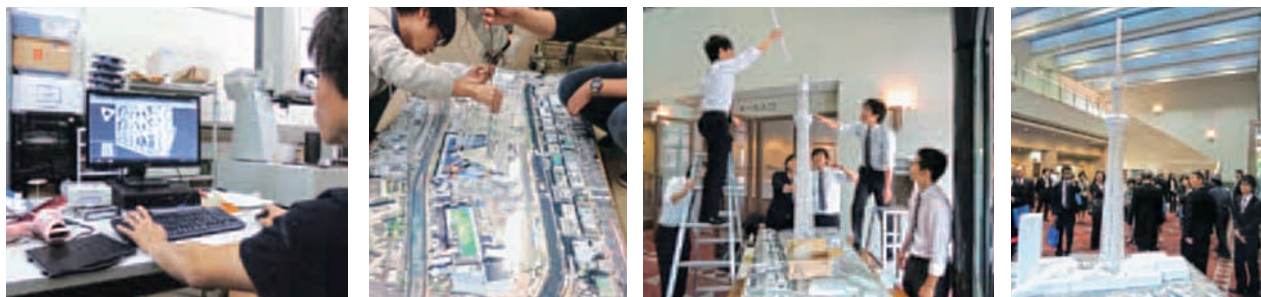
海外インターンシップでのプレゼンテーション

プロジェクトデザイン工学演習

プロジェクトデザイン工学演習は本専攻で最も重要な科目であり、プロジェクトマネジメントと併せ、5単位の必修科目として実施しています。これらの科目では、課題の発見から企画・設計・製作まで一連のプロジェクトをデザインする能力を養うことを目的としており、対象とする課題は、さまざまな分野が関連している複合問題とします。具体的には、呉市を対象とし、本科の4つの分野が含まれる地域の課題をまずは各自が提示します。次に、その中から選んだ4つ程度のテーマに対し、専門分野が異なる学生がチームを組み、改めて課題を明確にした上でアイデアを出し合い、それを具現化（設計・製作）します。これらの経験を通して、本科で学んだ専門分野の知識を知恵に変えるとともに、異分野の仲間と協働して複合領域の課題を解決しうる能力を身に付けます。



呉高専におけるプロジェクトデザイン



異分野協働の演習事例：東京スカイツリーの模型製作（呉高専創立50周年記念式典で展示）

特別研究

特別研究では、本科及び専攻科の学修総まとめ科目として、それまでに学修してきた知識や能力をさらに深化させ、教員の指導の下で専門の研究活動を行います。専攻科では、本科での卒業研究の経験をベースにし、より高度な研究能力を養うため、長期インターンシップならびに高度専門特別講義やプロジェクトデザイン工学総合ゼミなどを開設するとともに、専攻科修了までに国内外での学協会発表を全員に義務づけています。平成28年度修了生（25名）の場合、発表件数は延べ103件（うち国際会議での発表は15件）、査読付き論文も4編掲載され、学協会での表彰も延べ8件を数えるなどきわめて活発に活動しており、大学院生と遜色ない研究発表能力を身に付けています。



風洞実験による空力特性評価



電磁波システム実験室



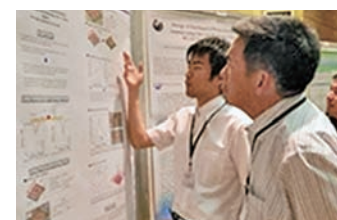
災害現場の調査



高等専門学校専攻科生研究交流会



学会等における口頭発表



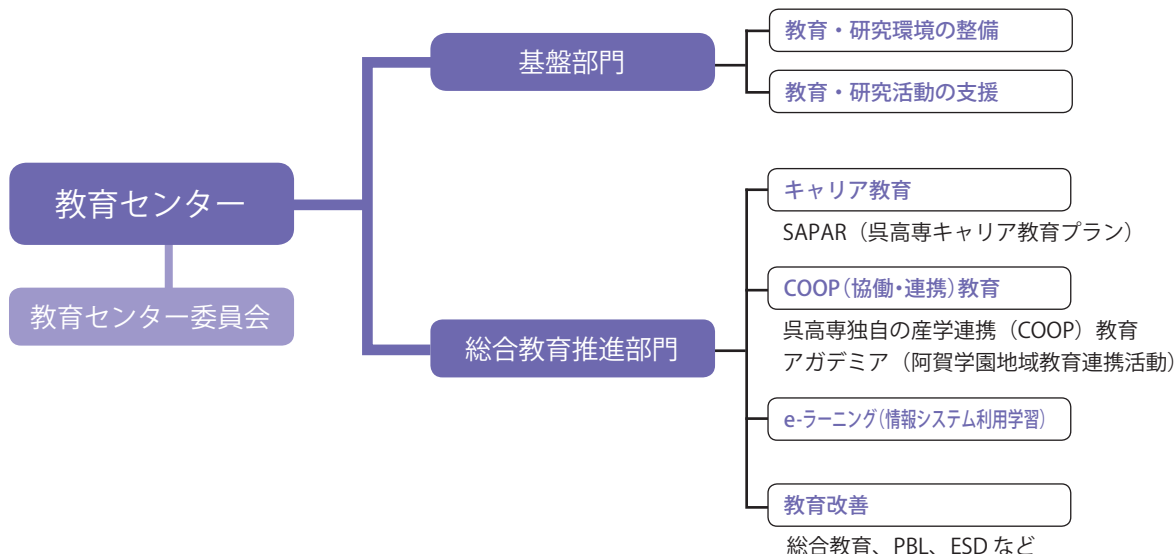
英語でのポスター発表

教育センター

教育センターは、本校の教育・研究の充実及び教育活動の展開を広く支援・推進することを目的として設置され、基盤部門と総合教育推進部門から構成されています。

基盤部門は、本校の教育・研究を支援する部門です。教育・研究のための施設・機器・システム整備から、教職員の活動の効率化・情報化のためのサービス提供までの幅広い活動を通し、本校の教職員・学生が、教育・学習・研究に専念できる環境の実現を目指しています。

総合教育推進部門は、学校として新たに導入する教育や分野・学校・地域にまたがる総合的な教育を推進する部門です。本校の教育・研究の質を向上するための活動と、教育センターに付託された教育活動を通して、キャリア教育やe-ラーニング、そして将来を見据えた先進的な教育改善等の総合教育の充実と発展を図っています。



キャリア教育

SAPAR キャリア教育

5年間の進路指導を、1・2年次（職探し＝サーチS、自己分析＝セルフ・アナリシスSA）、3年次（計画＝プランP）、4年次（実行＝アクションA）、5年次（実現＝リアライズR）の“SAPAR”と名づけて実施しています。

1年次は本校に慣れ親しむのが重要であり、LHRや学校行事等を通じて、クラスでの人間関係の構築（併せてクラブ・寮における人間関係の構築も）を図る期間としています。2年次は呉高专に慣れ、次年度の3年次における「プラン」期間の準備に取り掛かる期間としています。3年次は、自身の進路について具体的プランを計画する期間としています。4年次は、前年度の自身の進路プランの実現に向けて具体的に準備・実行する期間としています。5年次は、前年度の実行により、目標とする進路を実現させる期間としています。各学年において、下記のような取り組みを実施しています。

1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
Search = 職探し	Self - Analysis = 自己分析	Plan = 計画	Action = 実行	Realize = 実現
<ul style="list-style-type: none"> ○ 技術者入門(前期授業) ○ 研究者入門(課外活動) ○ 先輩に聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己分析 ○ 適性検査 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学編入学試験セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校外実習 ○ 就職準備セミナー ○ 大学編入学試験対策セミナー ○ SPI模擬試験 ○ 就職活動向け身だしなみセミナー ○ 合同会社説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験記・報告書の作成



技術者入門



適性検査



就職準備セミナー



合同会社説明会

COOP（協働・連携）教育

呉高専独自の産学連携（COOP）教育

本校では、教育内容（すなわち、教育の「質」）の保証がなされた教育管理下で、個々の学生の履修時期や意向、適正に合わせた、いわばオーダーメイド的な実務現場体験学習の履修を可能にする「呉高専独自の産学連携（COOP）教育」を行っています。

このプログラムの特徴は、①呉高専が教育プログラムの内容や進め方などの管理責任を持ち、一方、連携支援する産業界側の受入先は当該プログラムに基づいて現場で安全に実施する責任を持つようにするとともに、所要の教育・研究・企業管理職の実績を有する有資格者を呉高専と受入先とで指定し、綿密に連携して当該プログラムを進めることにより、教育の質を保証すること、②履修希望の個々の学生の意向や適正に合わせた教育プログラムを、その都度新たに作成することにより、最も効果的な教育が実現できること、③本校の既存科目と、時期や履修時間等が適合すれば、相応する履修単位が取得できることです。

アガデミア（阿賀学園地域教育連携活動）

アガデミアとは、本校を含む阿賀地区の7つの教育機関と地元自治会とで組織する「阿賀学園地域教育連携協議会」の愛称です。多くの学校が隣接する文教地区としての特色を生かし、学校と地域住民の方々が連携して活動を行っています。参加団体の代表が定期的に本校に集まって協議会を開催し、阿賀地区合同津波避難訓練、クリーンアップ阿賀（阿賀地区合同清掃活動）、アガデミア文化発表会などを毎年実施しています。これらの行事には本校の学生、教職員が参加し、地域の安全、美化、文化活動に貢献しています。



アガデミア文化発表会
（本校演劇部の公演）

e-ラーニング（情報システム利用学習）

教育センターに Moodle という LMS（Learning Management System）が設置されており、呉高専の e-ラーニングの中核をなすシステムです。英語科には ALC 社の LMS が設置されています。また、全国高専統一 LMS として、Blackboard が設置されました。LMS とは学習管理システムのことで、インターネットを通じて、パソコンだけでなく、スマートフォンでも学習できるため、いつでもどこでも自主的に学習することができます。英語や数学などの一般科目の教科だけでなく、専門科目への導入も進んでいます。学生のレベルの向上、学習意欲の増進、資格取得数の増加が期待でき、e-ラーニングのさらなる活用を行っていきます。

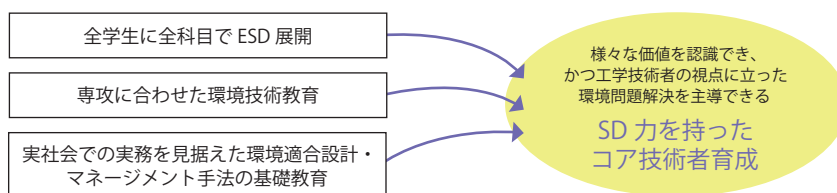


e-ラーニングの授業風景

ESD（持続発展教育）

1980 年頃から、地球規模での環境問題が発現してきています。全人類が協働して環境保全を図っていかなければならない問題ですので、国による社会的状況の相違はあっても、その国を構成する人々一人一人が、さまざまな価値の多様性と地球規模の環境保全の重要性を認識し、協調の意識と環境改善に努めていく意志をもって、日々の生活を過ごすことが基本となります。そこで、国連のユネスコが中心となって、全世界の人々に、「持続可能な発展開発のための教育」（ESD、略して「持続発展教育」）を実践していきましょうとの提唱がなされ、現在に至っています。

呉高専では、全ての学生に対し、工学専門技術者として将来取り組む技術開発を通して、この地球環境保全に寄与し続けていく人材に育つよう、全科目に ESD を取り入れた講義・演習・実習を展開する教育を実践しています。呉高専生の全てが、一過性でない、この様な「全科目 ESD」という持続性のある教育態勢の下において、さまざまな価値の多様性を認識できる高い倫理性と、持続発展可能な技術・研究開発（SD）を主導できる専門技術・能力とを身に付けることにより、地球規模での SD 社会の構築に寄与できるようになります。なお、この「全科目 ESD」は、独立行政法人大学評価・学位授与機構による外部評価で、「優れた特色ある取り組み」として高い評価を受けました。



インキュベーション・デザイン室

インキュベーションワークとは？

「インキュベート」とは、“卵を孵化する”という意味合いから、設立して間もない企業や起業家などを支援・育成するといったシーンで多く使われている言葉です。呉高専生はまさに“技術者の卵”であり、この卵をいわゆる学校教育というアプローチではなく、起業家の支援・育成のアプローチを参考に孵化させます。この授業によって、呉の地で孵化した学生が、単にものづくりができる技術者ではなく、ものづくりによって、社会のシステムを構築し、人々の価値観を変え、人類の幸せをもたらす人材として巣立っていくことを目指します。

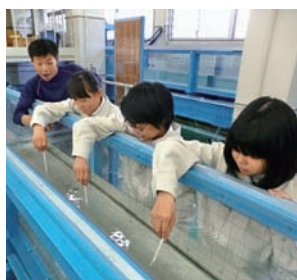
全学科全学年共通のコアタイムを確保して、全学生と全教員が一齐に授業を実施します。学生はグループに分かれて一つのテーマに年間取り組みます。テーマとしては、呉市や企業と連携するテーマ、介護福祉に関連するテーマやコンテストに参加するテーマ、芸術・文芸・料理など約70のテーマがあります。学生達は、テーマのグループのメンバーと議論をしてプロジェクトを立ち上げ、実践的な活動に挑みます。地域の課題に挑むいくつかのプロジェクトでは、地域の発展に貢献する成果を挙げています。

この授業によって学生は、体験を通して勉強したことが実生活または実社会で活用されていることを実感します。「学生に何を教えたか」ではなく「学生が何を学んだか」を主眼においた授業を実施しています。



技術者入門

1年次の前期は、準備期間として、高専で学ぶ専門的な授業と将来の技術者像をイメージできるように導入授業を実施します。授業では、国際的な経済ゲーム形式で多様性を経験したり、高学年で学ぶ実験を行ったり、専門的な内容を盛り込んだものづくりコンテストを行ったりします。これらの活動はグループで実施しますので、まだ人間関係を構築できていない新入生にとっては、友達づくりの場の役割も果たします。後期からは、個別のテーマに配属され、上級生と一緒に実践活動に取り組みます。



インキュベーションワークロゴマークの由来

Incubation Workのイニシャルをモチーフにしたこのロゴマークは、学生を表すiが、遠近法で描かれた細い道を指差しています。独創的な解決策は道無き道を0からスタートすることを暗示しています。

使われている色は本校の4学科の各シンボルカラーです。学科の枠を越え、既存概念を超えたアイデアの創出を目指しています。



インキュベーションワークのホームページURL：<http://www.kure-nct.ac.jp/incubation/index.html>



テーマ紹介

石段の家プロジェクト



呉の未来につながる場をつくりあげるため石段の家の再生プランを考え、リノベーションを行う。また、多くの方々に活動を知ってもらうためのイベントも行う。

阿賀を盛り上げるためのまちづくりプロジェクト Again



阿賀を盛り上げるためのプロジェクトを阿賀住民と一緒に企画運営する。今まで、阿賀MAPを作成したり、1日限りの阿賀学校のイベントを行った。

アンサンブル



音楽についての知識を深め、技能を高めつつ、責任感と協調性を学習する。校外イベントにも参加し、音楽で地域に貢献できるように活動を行っている。

防災グッズの開発と製作



様々な事故や災害が起きた時に役立つ防災グッズや事故や災害の発生を防止、あるいは被害を軽減できるグッズを開発・製作する。

高齢者の夢を高専生が叶えるモノづくり



介護施設を訪問してお年寄りのニーズを調査し、お年寄りの夢を叶えるリハビリ器具を設計開発する。

ドローンで映像を撮ろう



ドローンを使った映像作成を行う。呉高専のプロモーションビデオや呉市と連携して映像作成を行う。

イベント

「若者の呉 いまむかし」展



呉市立美術館の「この世界の片隅に」展の最終日に呉高専とのコラボ企画「若者の呉 いまむかし」展の発表会を行った。学生が、これまでに呉市で行ってきた活動を発表したり、「この世界の片隅に」にちなんだ曲を演奏した。

クルーズ船「銀河」親子体験クルーズ



呉港振興会が平成28年8月21日(日)に実施した「呉港における海・船に関する理解促進」事業のクルーズ船「銀河」親子体験クルーズにおいて呉高専の学生が各種イベントを企画して運営者として参加した。

トビキリ夏祭り「夏の坂道遠足」



呉市両城地区にある空き家を活用して、平成28年9月に呉市両城地区で開催されたイベント。石段の家プロジェクトのメンバーが地元企業と協力して企画・運営を行った。約1,500人が来場し、当日の様子は呉市広報誌に特集記事として掲載された。



学校行事

本校は、前期と後期の2学期制です。1年間を通して、さまざまな行事が開催されます。



入学式



1年生遠足



体育祭



文化行事



学校見学会

4月	春季休業
	入学式、編入学式、入寮式
	始業式、対面式
	新入生オリエンテーション
	寮生指導者研修会
	遠足（1年）
	開校記念日
	学生健康診断
	寮生会総会
	学生寮防災避難訓練
5月	保護者授業参観
	専攻科入学者選抜試験（推薦）
	体育祭
	学生総会
	前期中間試験
6月	学生寮映画祭
	文化行事
	専攻科入学者選抜試験（学力）
	専門カウンセラー講話（1年）
7月	保護者懇談会、学生寮保護者懇談会
	学科交流企画（2年）
	中国地区高専体育大会
8月	専門カウンセラー講話（3年）
	前期末試験
	編入学試験
9月	学校見学会
	夏季休業
9月	夏季休業
	全国高専体育大会
9月	夏季休業
	ハワイ大学マウイ校ホームステイ語学研修



10月	入試説明会（呉、広島、福山）
	ロボコン中国地区大会
	プロコン全国大会
	ステップキャンパス（3年）
	寮生指導者研修会
	保護者授業参観
	寮生会総会
	寮祭
11月	高専祭・学校見学会
	専攻科入学者選抜試験（社会人）
	中国地区高専冬季体育大会
	中国地区高専英語弁論大会
	校内球技大会
12月	後期中間試験
	防災避難訓練
	スポーツリーダーズセミナー
	海外研修旅行（3年）
	ロボコン全国大会
	デザコン全国大会
1月	冬季休業
	学生総会
	校内駅伝大会
	入学者選抜試験（推薦）
2月	ブレコン全国大会
	学年末試験
	入学者選抜試験（学力検査）
	学生会役員研修セミナー
3月	終業式
	学年末休業
	入学説明会
	卒業式、修了式
	進路懇談会



ロボコン



高専祭



デザコン



校内駅伝大会



卒業式



国際交流

NIT, Kure College International Exchange

本校では、国際的に活躍する技術者を育成するため2009年4月に国際交流室を設置しました。バックボーンとなる専門技術力に加えグローバル視点で物事が考えられる「スマートエンジニア」の育成を目指し、「世界を知る」・「世界と対話する」・「世界に挑戦する」を成長のための3つのステップとして様々な取組を行います。



世界を知る

世界に興味を持ち、日本と世界各国の文化・習慣の違いを理解している状態を目指します。

○大連・異文化体験プログラム

世界に目を向ける第一歩として、協定校である中国の大連大学へ行き、現地の生活や文化に直接触れ、日本との違いを体験しています。プログラム終了後も、学生は英語、日本語、時には中国語を駆使して、大連大学の学生と交流を続けています。



大連の日系企業を工場見学

○イングリッシュ・ラウンジ

英語でコミュニケーションをとる機会を増やすため、2013年度に始まった企画です。ネイティブの先生や留学生を交え、いろいろな話題について話したり、ゲームやパズルをしたりと、楽しみながら自然と英語が使えるようになっていきます。



イングリッシュ・ラウンジ

○留学生との交流活動

本校では1989年から留学生を受け入れています。留学生の国の文化を知り、交流を深めるため、地域の方々と本校学生及び教職員が参加できるイベントを企画しています。



国際交流パーティー

○中国地区留学生交流シンポジウム

中国地区8高専から留学生と日本人学生が集まり、自身が体験した異文化について語り合い、参加型学習を通じて各国との関わりを学ぶ合宿を行っています。言葉の壁を越えて国籍の異なる学生たちがお互いを分かり合うことの楽しさ・大切さを実感することができます。



シンポジウムを終えて参加者全員で集合写真

○海外の高校との交流

自ら英語で話しかけ、外国人の友達を作ることができるよう、海外の高校と交流をしています。2013年度は、外務省による北米地域との青少年交流活動 KAKEHASHI Project に参加し、本校学生23名がアメリカへ派遣され、交流を行いました。

毎年、姉妹提携校であるオーストラリアラドフォードカレッジや、アメリカから学生や教員を20名程度受け入れ、本校学生がホストファミリーとなり、授業参加やイベントを通じて国際交流を続けています。



授業に参加して交流
(ラドフォードカレッジ受入)



本校学生との交流
(アリゾナから高校生を受入)

世界と対話する

コミュニケーションツールとして英語が使える、世界の人とつながりを持つことを目指します。

○海外研修旅行

学生のグローバル化を推進するため、従来4年次に行っていた特別見学旅行を、2016年度から3年次での海外研修旅行に変更して実施しています。2016年度は台湾に渡航し、国立中央大学、国立臺灣海洋大学等を訪問し、学生と交流したり、故宮博物院等の文化施設を見学したりしました。



九份地区にてお茶を楽しむ

○ハワイ大学マウイ校姉妹校交流研修

10年以上にわたり、UHMCとの交流を続けています。ネイティブの先生による密度の濃い英語授業、ホームステイ先で学ぶハワイの文化や習慣、各国からの留学生との国際交流を通じて、生きた英語を学びながら世界に友達を作る交流研修を実施しています。



語学研修修了書を持った学生を囲む先生とホストファミリー

○All English Camp

国際交流の活性化とともに、英語によるプレゼンテーションスキルの向上を目指し、学校の枠を超えた語学研修の実施を行います。



国際交流交歓会

世界に挑戦する

専門知識をバックボーンにし、国際会議での研究成果の発表や海外インターンシップに挑戦します。

○海外学術交流

機械工学、電気情報工学、環境都市工学、建築学という4つの専門分野を学ぶ本校の学生と海外の大学生が、お互い現地に赴き、専門分野についての学術交流を行っています。



大連大学日本語学院で専門分野を解説

○国際学会発表

学生の国際性の向上等を目的として、国内外で開催される国際学会等での研究成果発表を推進しています。2016年度は19件の発表を行いました。



ISATE 2016

○海外インターンシップ

国際的に活躍できる能力を持つ実践的な技術者養成を目的として「海外インターンシップ」を推奨しており、2016年度にはミャンマーでのインターンシップに参加しました。



インターンシップでの設計演習



地域との連携

地域に根ざした高等専門学校を目指し、「人づくり」・「ものづくり」・「まちづくり」とさまざまな取り組みを行うことによって、地域からの幅広い要望に応え、さらには地域社会の活性化及び社会の発展に貢献しています。

人づくり

呉市、近隣教育機関、地元自治会との活動や、公開講座及び出前授業の開催を通じて、教育活動を通じた生涯学習の提供、地域連携活動の支援を推進しています。

<活動の一例>

○サイエンスサポートプロジェクト

インキュベーションワークのテーマの1つでもある本プロジェクトでは、地域の子供たちと接し、理科の楽しさや面白さを伝えるイベントを企画・実施しています。

平成 28 年度は、サイエンスショーや中学校への出前授業、大和ミュージアムでのサイエンスワークショップの開催、科学イベントでの実験・工作コーナーの出展など、合計 18 件のイベントを行いました。



中学校での出前授業

公開講座

教育研究の成果を地域社会に広く公開し、生涯学習の一端を担うとともに、教育機能を社会に反映させるため、工学系はもちろん、さまざまな分野の講座を開講しています。

過去 3 年間に実施した公開講座受講者数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
開 講 講 座 数	36 講座	39 講座	29 講座
受 講 者 数	829 人	964 人	814 人



エジソン・スクール

<平成 28 年度の実施例>

- エジソン・スクール (全 8 回)
- 防災工学 (全 7 回)
- 海外旅行で役立つ英語 ~これだけは知っておきたい~

出前授業

小・中学校などでの教育支援ならびに講義及び実験を通して本校の教育内容を理解してもらうこと、また、理工系分野の魅力を発信するために出前授業を行っています。平成 28 年度は 20 件の出前授業を行いました。

<平成 28 年度の実施例>

- ひかりの不思議
- 理科をおもしろく勉強しよう
- マイコン入門
- ペーパードームを作ろう



ペーパードーム作り

サイエンスショー

小・中学生に科学の楽しさともものづくりの醍醐味を実体験してもらいイベント「びっくりワクワクサイエンスショー」を開催しています。呉高专が工学系高等教育機関である特徴を活かした自然科学・人文社会、機械、電気、環境、建築といった幅広い分野の実験・工作コーナーを平成 28 年度は 43 件出展し、761 名の参加がありました。



ジオラマコーナー



バーチャルリアリティ体験



工作コーナー



ものづくり

本校は、社会が求める技術者を養成する高等教育機関として、本校の所在する呉市をはじめとした地域及び企業等との連携活動を通して、教育・研究の場として地域の課題に取り組んでいます。

共同研究・受託研究／受託事業・技術相談

地域企業等のニーズに応じて、共同研究・受託研究／受託事業・技術相談を行っています。

過去3年間の共同研究・受託研究／受託事業・技術相談の実施状況

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
共同研究	15	7,667	20	10,652	18	8,643
受託研究／受託事業	3	2,543	3	2,713	3	1,592
技術相談	56		45		20	

地域からの卒業研究テーマの受入

学生が地域の企業等が抱えている技術課題に取り組めるよう、地域のみならず卒業研究テーマを募集しています。

<平成28年度実績>

- 機械工学分野 …繰返し衝突によるステンレス表面の損傷現象に関する研究
- 機械工学分野 …小型直線翼垂直軸風力発電装置の出力効率向上の研究
- 電気情報工学分野 …一人暮らし高齢者見守りシステム技術の開発
- 環境都市工学分野 …阿賀町の埋立と町造りの歴史を遡り阿賀湾原風景回復の追求
- 環境都市工学分野 …牡蠣殻焼成セラミックボールおよび野呂山天然の電離水素水の性質分析と用途開発
- 環境都市工学分野 …呉市地域における湧水源の有効活用のための基礎データ収集・解析

まちづくり

呉市、呉市教育委員会、呉信用金庫との協定により、それぞれの地域活性化の取組に参加しているだけでなく、授業の一環として、また研究室独自においても地域と協働し、まちづくりに参加しています。

<まちづくりへの参加の一例>

○あがまち銘板の製作

建築学科間瀬研究室では、呉市の阿賀まちづくり推進協議会（阿賀歴史文化研究会）との共同製作で「あがまち銘板」の製作・設置に取り組んでいます。

銘板のデザインは本校が手がけ、レーザー加工機により製作しています。また、文章は地域の方々が調査・執筆しています。毎年十数か所の設置を目標とし、最終的には200本の銘板が町内を飾る予定です。



あがまち銘板

○「石段の家2号館」リノベーションプロジェクト（空き家再生プロジェクト）

インキュベーションワークのテーマの1つ、『呉の未来を創る【場づくり・コトづくり・ヒトづくり】～「石段の家2号館」リノベーションプロジェクト～』は、呉市両城の「石段の家2号館」を題材とした空き家再生プロジェクトです。学科・学年の枠を超えて学生が知恵を出し合い、地域の方々と協働を通じて、単なる空き家の改修ではなく、地域の活性化に役立つ“再生”に取り組んでいます。

平成27年度は、学生自らが地域を歩いて感じた両城の魅力をマップにまとめるとともに、イベントの開催を通じた地域の方々と触れ合いや建物内部の一部改修作業など多くのことを経験しました。平成28年度には2号館の大規模改修を行い、「トビキリ夏祭り」を開催しました。今後も具体的な再生プランの提案とその実践を目標に活動を継続します。



トビキリ夏祭りの様子

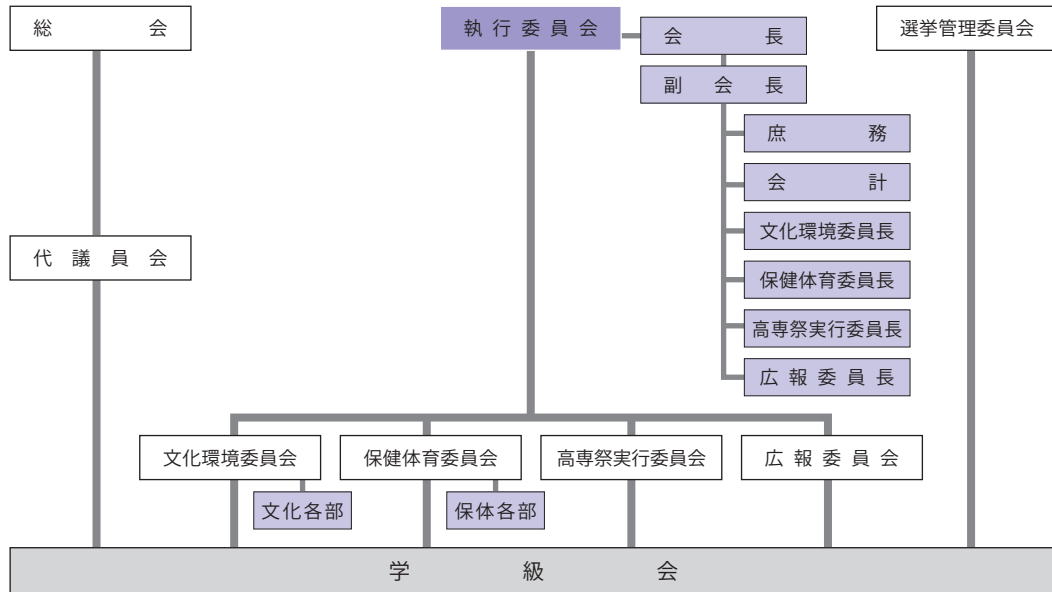


学生会

学生会は、「会員の自主的活動により、会員個々の心身の鍛錬及びその人間形成を助長し、併せて会の自主的運営により、民主的人格を養う」ことを目的として設けられています。課外教育活動も盛んに行われ、多くの学生が好きなクラブに入って活動しています。毎年秋には、学生達の自主運営による高専祭が2日間開催され、各学科で面白い実験や展示を行います。各種の文化展示や演芸、各クラスによる模擬店も催されます。

学生会組織図

■各機関の組織



クラブ活動

部	文化系	ICT科学部／国際交流部／軽音楽部／吹奏楽部／演劇部／ダンス部／ロボット制作部／ワンダーフォーゲル部
	体育系	硬式野球部／ソフトテニス部／卓球部／バスケットボール部／バレー部／陸上競技部／柔道部／剣道部／サッカー部／アーチェリー部／ハンドボール部／テニス部／ラグビー部／ソフトボール部／バドミントン部
	その他	インターアクトクラブ／人権問題研究会
同好会	写真同好会／建築デザイン同好会／自動車同好会／茶華道同好会／文芸同好会／理化学研究同好会／映画同好会／フォークソング同好会／水泳同好会／空手道同好会／将棋同好会／フットサル同好会／ピアノ同好会／軟式野球同好会／機械機構同好会／アカペラ同好会／書道同好会	



ソフトテニス部



硬式野球部



陸上競技部



剣道部



吹奏楽部



ロボット制作部



ICT科学部



ワンダーフォーゲル部

図書館

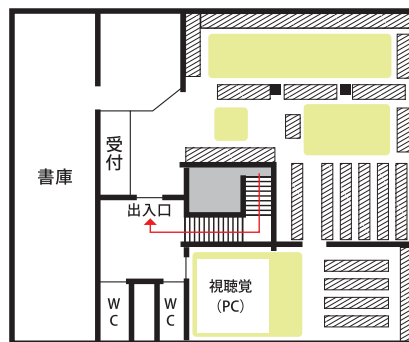


図書館棟

図書館棟 2階

図書館棟 1階ロビーの階段を上がり、2階へ進むと入口があります。

- …閲覧スペース
- …開架書架



図書館は、学生の勉学、幅広い教養を身に付ける場として、あるいは、教職員の教育研究活動の進展に資するため、活発に利用されています。また、一般の方にも公開しています。

開館時間

【授業期】（平日）9:00～20:00（土曜日）10:00～15:30

【休業期】（平日）9:00～17:00（土曜日）閉館

閉館日

日曜日、国民の祝日、年末年始
※その他臨時閉館日があります。

利用範囲及びサービス

【学生／教職員】

- 図書館内にある資料の閲覧及び貸出
- パソコンなど館内設備の利用
- 図書館 WEB サービス（電子ジャーナル等）の利用

【一般利用者】

- 図書館内にある資料の閲覧及び貸出

上記の他、レファレンス（資料を探すお手伝い）、視聴覚資料の利用（図書館所蔵 DVD の視聴）などを行っています。

貸出冊数・期間

区分	授業期	休業期
一般学生	3冊	5冊
卒研究生	5冊	
専攻科生		14日
教職員	14日	14日
一般利用者（要申請）	3冊	

視聴覚資料

平成 29 年 3 月 31 日現在

区分	レーザーディスク	コンパクトディスク	D V D
枚数	244	32	698

読書推進活動

- 刊行物 … 図書だより
- 開催行事 … 読書感想文コンクール、ブックハンティング
- 意見箱の設置 … 学生からの要望事項を汲み取り、改善するため、館内に意見箱を設置しています。また、学生購入希望図書の申し込みも受け付けています。

蔵書数

平成 29 年 3 月 31 日現在

区分	分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	
図書	和書	6,149	3,983	7,970	11,391	13,125	22,492	1,137	3,555	3,797	12,652	86,251
	洋書	472	485	158	283	1,061	1,488	23	202	2,009	1,335	7,516
	計	6,621	4,468	8,128	11,674	14,186	23,980	1,160	3,757	5,806	13,987	93,767

▶ 呉高专図書館のホームページ <http://wwwlib.kure-nct.ac.jp>

図書館のホームページでは、より詳しい情報をご覧頂けます。

- 開館カレンダー … 開館状況を確認できます。
 - 蔵書検索（OPAC）… 学校所蔵資料の詳細が分かります。
- 「図書だより」や、本校の研究成果をまとめた「呉工業高等専門学校研究報告」を公開しています。



閲覧室

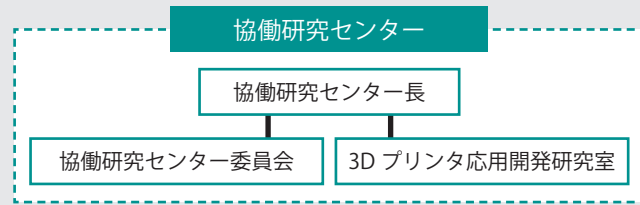
協働研究センター



協働研究センターは、産学官連携及び地域連携活動を通じて本校の教育・研究を推進するとともに、産業技術の振興及び地域社会の発展に貢献することを目的として設置されました。

組織

本校の各分野の教員から組織され、運営を行っています。



主な業務

【地域産業界との連携】

- 地域企業のニーズに応じて、技術相談、共同研究及び受託研究／受託事業を行っています。
- 本校のシーズや研究成果を紹介する研究室訪問やシーズ活用セミナーを他機関と連携して行っています。

【地域の教育機関との連携】

- 広島県内の小・中学校へ出前授業に出向いたり、学内で科学イベントを実施するなど、理科教育の推進を行っています。

【地域社会との連携】

- 本校の教育研究の成果を地域社会に広く公開し、生涯教育の一環として、文化の向上に貢献することを目的に、公開講座を実施しています。

【知財教育】

- 本校の学生を対象に、知的財産教育を含む実践的な技術教育及び研究指導を実施しています。
- 本校の知的財産の創出、権利化や維持・管理及び知財セミナーを実施しています。

【3D プリンタ応用開発】

- 3D プリンタに関連した研究や技術指導を行っています。



知財情報の検索演習



次世代ものづくり技術セミナー

主な設備

協働研究センターの設備は、本校の教育・研究を始めとして、企業等外部の機関との共同研究や地域との技術交流に利用されています。

- ・環境微生物評価 DNA シーケンサ
- ・四球式摩擦摩耗試験機
- ・高速ビデオカメラシステム
- ・CNC 三次元測定機
- ・動力循環式歯車試験機
- ・走査型電子顕微鏡
- ・ロボットアーム制御実験装置
- ・トータルステーション
- ・材料強度試験装置
- ・各種 3D プリンタ



環境微生物評価DNAシーケンサ



四球式摩擦摩耗試験機



走査型電子顕微鏡



3Dプリンタ

技術センター



技術センターは、「技術、信頼、挑戦」をモットーに、本校の技術に関する専門的業務を円滑にかつ効果的に処理するとともに、技術職員の能力向上、優れた人材の確保、高度な教育研究支援体制の充実に努めることを目的として組織されています。

主な業務

- 学生の実験・実習、学生への教育教材の作成、卒業研究・特別研究、教員の研究活動等への技術指導及び教育支援
- 学外との共同研究等への技術支援、新技術開発への技術支援、技術の継承・保存及び技術向上のための研修

組織

実習工場系と教室系（機械・電気情報・環境都市・建築・情報処理）の計12名で構成され、各専門分野で技術支援を行っています。

主な設備

技術センターの設備は主に実習工場系職員が担当し、工作実習、創造製作、工学実験をはじめ、各学科の卒業研究、学術研究、ロボットコンテストのロボット製作や、インキュベーションワークなどに利用されています。

また、工作実習では、旋盤などの各種工作機械の基本的な加工技術、溶接技術、鋳造技術、マイコン制御技術などを教育しています。また、機械工学科3年次後期の総合実習では、工作実習の集大成として、前期の機械設計製図で学生自身が設計した図面をもとに、実際に品物を製作します。

- ・5軸マシニングセンター
- ・ワイヤ放電加工機
- ・レーザー加工機
- ・普通旋盤
- ・万能フライス盤
- ・複合フライス盤
- ・立フライス盤
- ・立削り盤
- ・ラジアルボール盤
- ・直立ボール盤
- ・ホブ盤
- ・平面研削盤
- ・シヤリングマシン
- ・帯鋸盤
- ・高速切断機
- ・エアプラズマ切断機
- ・アーク溶接機
- ・るつぼ炉



5軸マシニングセンター



ワイヤ放電加工機



レーザー加工機



工作実習（溶接）



電気情報工学実験



水理実験



構造工学実験



工作実習（旋盤）

学生寮



学生寮「嶺陽寮」は、本校に在籍する通学困難な学生（留学生を含む。）が利用できるように学校敷地内に設置されています。

学校の規律ある管理のもとで（教員と寮生会とが互いに連絡を密にして）、学生に対して快適な日常生活と学習環境を確保しています。「嶺陽寮」は、学内において「課外教育施設」としての役割を果たしており、学生の自主性、友好関係、協調精神を促しながら、将来、社会へ出て行くために必要な積極的な姿勢の育成を目指しています。

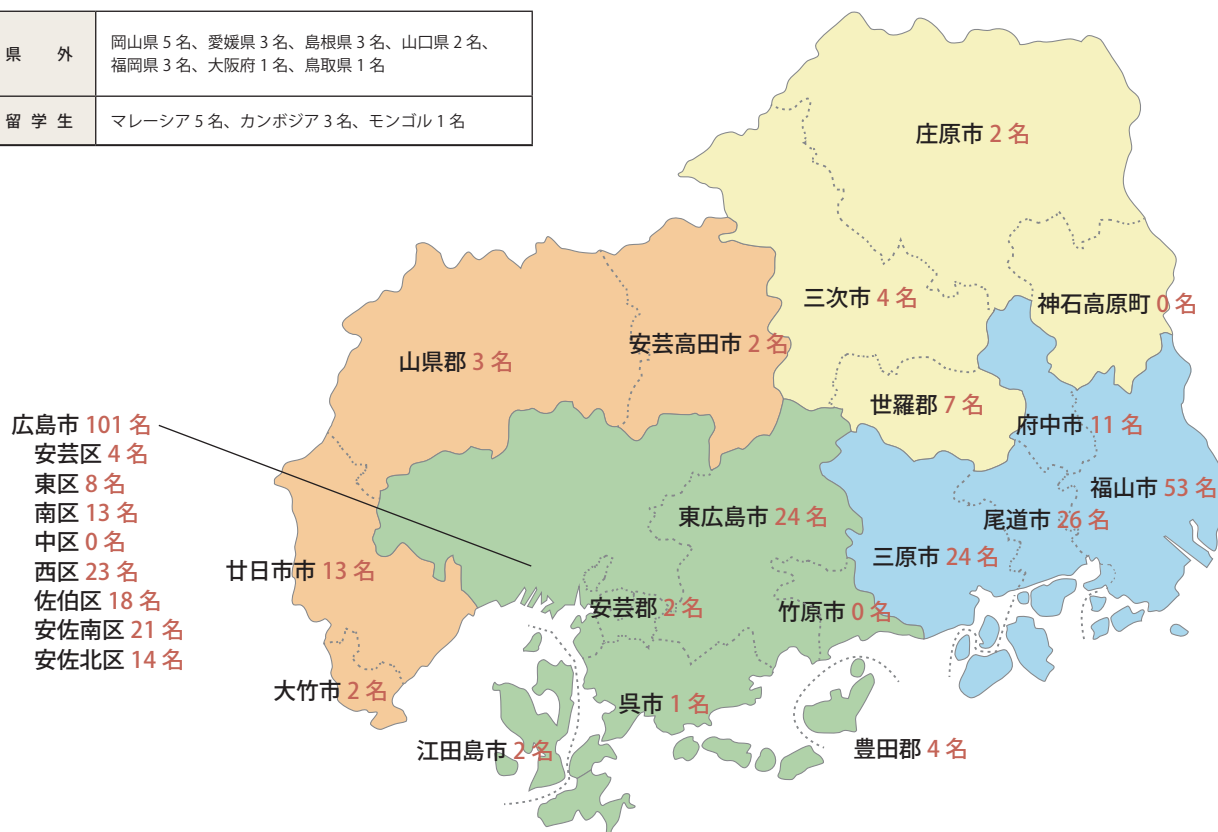
入寮者数

平成29年4月1日現在

	学 生	学 生					小 計	留 学 生	合 計
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年			
本 科	機 械 工 学 科	17 (1)	14 (1)	24 (3)	10 (1)	20 (1)	85 (7)	3 (1)	88 (8)
	電 気 情 報 工 学 科	19 (1)	16 (2)	10 (1)	11	16 (1)	72 (5)	1 (1)	73 (6)
	環 境 都 市 工 学 科	14 (4)	14 (3)	16 (4)	11 (3)	12 (1)	67 (15)	2 (1)	69 (16)
	建 築 学 科	10 (5)	10 (1)	20 (8)	19 (6)	10 (5)	69 (25)	2	71 (25)
本 科 生 計		60 (11)	54 (7)	70 (16)	51 (10)	58 (8)	293 (52)	8 (3)	301 (55)
専 攻 科 生		1	5	—	—	—	6	0	6

() : 女子学生内数

県 外	岡山県 5 名、愛媛県 3 名、島根県 3 名、山口県 2 名、福岡県 3 名、大阪府 1 名、鳥取県 1 名
留 学 生	マレーシア 5 名、カンボジア 3 名、モンゴル 1 名



学生寮経費

学生寮で生活するための諸経費は以下のとおりです。

寄 宿 料		学生寮の宿泊費（部屋代）	二人部屋：月額 700 円 一人部屋：月額 800 円
寮 費	入 寮 費	新入寮生の受入準備品に充てる経費	3,000 円 (入寮時のみ)
	維 持 費	学生寮での日常生活に必要な電気、ガス、水道料、清掃委託費、その他消耗品の購入、軽微な物の修理・修繕等に充てる経費（エアコンに関する経費を含む）	月額 10,000 円 (4月～2月)
給 食 費		寮食堂委託業者に支払う経費で、食事材料費と給食維持費（人件費及び光熱水料等）に充当 【食事材料費】 ○日額 745 円（朝食：175 円／昼食：250 円／夕食：320 円） ○給食維持費：月額 10,800 円（4月～2月）	月額 約 33,150 円 (1ヶ月 30 日の月の場合)

寮の年間スケジュール

4月	入寮式／新入寮生歓迎夕食会／寮生会総会／新入寮生歓迎行事／寮生指導者研修会／学生寮防災避難訓練
5月	学生寮映画祭
6月	寮生会長選挙
8月	閉寮期間
10月	寮生指導者研修会／寮祭／寮生会総会・寮生会役員交代式
2月	卒業寮生歓送夕食会／部屋替



居 室



入寮式



新入寮生歓迎行事



寮生指導者研修会



学生寮映画祭



寮 祭



卒業寮生歓送夕食会

福利厚生施設



福利施設（静心館）

福利施設（静心館）は学生や教職員の憩いの場及びコミュニケーションの場として広く利用され、以下の施設があります。

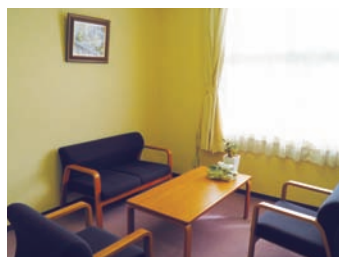
施設概要

- ・鉄筋コンクリート造2階建の2階部分、延面積 609㎡
- ・保健室／学生相談室／和室／研修室／学生会室／学生ラウンジ

学生相談室



学生相談室



カウンセリングルーム

多感な時期の学生生活を充実させるため、メンタル面のサポートや、日常生活の悩み事相談などを行う学生相談室が設置されています。専用のカウンセリングルームを完備し、落ち着いた雰囲気の中でカウンセリングができる環境が準備されています。学生相談室担当教員及び看護師の他、4名の非常勤カウンセラーを配置して平均週3日のペースでカウンセリングを実施しています。

保健室



学生の心身の健康をサポートするため、保健室が設置されています。保健室には常勤の看護師が配置されており、日常の健康相談、体調不良の際のサポート、学生相談の窓口、学生健康診断など、さまざまな業務を行っています。

食堂・売店



食堂は110名が同時に利用できるホールを備え、売店は文房具、食品などを販売しています。

合宿研修施設



合宿研修所は本校の課外活動を支援するための施設です。鉄筋コンクリート造平屋建で50人収容でき、シャワー、洗濯機などが設置されています。平成28年度にリニューアルされました。

図書館棟とその周辺

図書館棟とその周辺には、パソコン演習室、図書館、学生課、学生談話スペースが設置され、多くの学生が日常的に利用する場所になっています。

図書館棟ロビー

「co-ba KURE-KOSEN」

図書館棟ロビーには、学生達の自主的活動スペースがあります。これは学生同士が刺激し合い自分の殻を破って新しいことにチャレンジする（インキュベート（孵化）する）ことを誘発する空間です。100名以上の学生とプロの空間デザイナーと共にD.I.Yで製作しました。インキュベーションワークの授業と連携しながら、さまざまな取り組みがこの場所で展開され、世界に向けて情報を発信しています。



東京スカイツリー模型

呉高専創立50周年特別企画として、専攻科の学生が「エンジニアリングデザイン」の授業で、東京スカイツリーの模型製作に挑みました。縮尺1/300、高さ2m超の巨大かつ精巧な模型を最新の3Dプリンターやレーザー加工機を使用し、製作しました。



最先端ロボット Pepper

呉高専では、感情を持ったパーソナルロボット Pepper が、本校の特別フェローとして、来場者の対応や広報業務を担っています。また、学生は Pepper を通して最先端のロボット技術を学んでいます。
※ソフトバンクロボティクスの Pepper を活用し、独自に実施しています。



ショールーム

<これまでの展示>

- 第1回 2012年度CADコン「3部門受賞」
- 第2回 ソフトテニス部 活動の軌跡
- 第3回 2013年度デザコン「審査員特別賞」
- 第4回 第2回小中学生向理科学術教材開発コンテスト「敢闘賞」
- 第5回 呉高専陸上競技部創部50周年記念 50キロ駅伝開催
- 第6回 国際交流室 KAKEHASHI プロジェクト（学生企画）
- 第7回 呉高専創立50周年記念
- 第8回 全国高等専門学校デザインコンペティション2014in やつしろ 入選作品
- 第9回 3Dプリンタ学生ものづくり作品
- 第10回 建築学科卒業設計作品
- 第11回 呉高専「モノづくり」作品
- 第12回 第50回全国高専体育大会ソフトテニス部女子個人戦ダブルス優勝
- 第13回 電気情報工学科 教育・研究のアクティビティ
- 第14回 建築学科 1/30スケールで見る有名建築
- 第15回 インキュベーションワークの紹介
- 第16回 全国高専体育大会ソフトテニス部女子個人戦ダブルス2連覇！
- 第17回 2016年度全国高専デザインコンペティション 入賞作品

呉高専ショールームは、学生の教育や研究の成果を紹介するための空間です。活動の成果物だけでなく、成果に至るプロセスをポスターにまとめて展示しています。夕方にはライトアップされ、周囲を明るく照らす存在となります。



プロムナード

キャンパスの憩いの空間として、図書館棟前の庭をプロムナードに整備しています。歴史を刻んだ樹木とゆるやかな曲線を使った歩道が心地よい空間となっています。



組 織

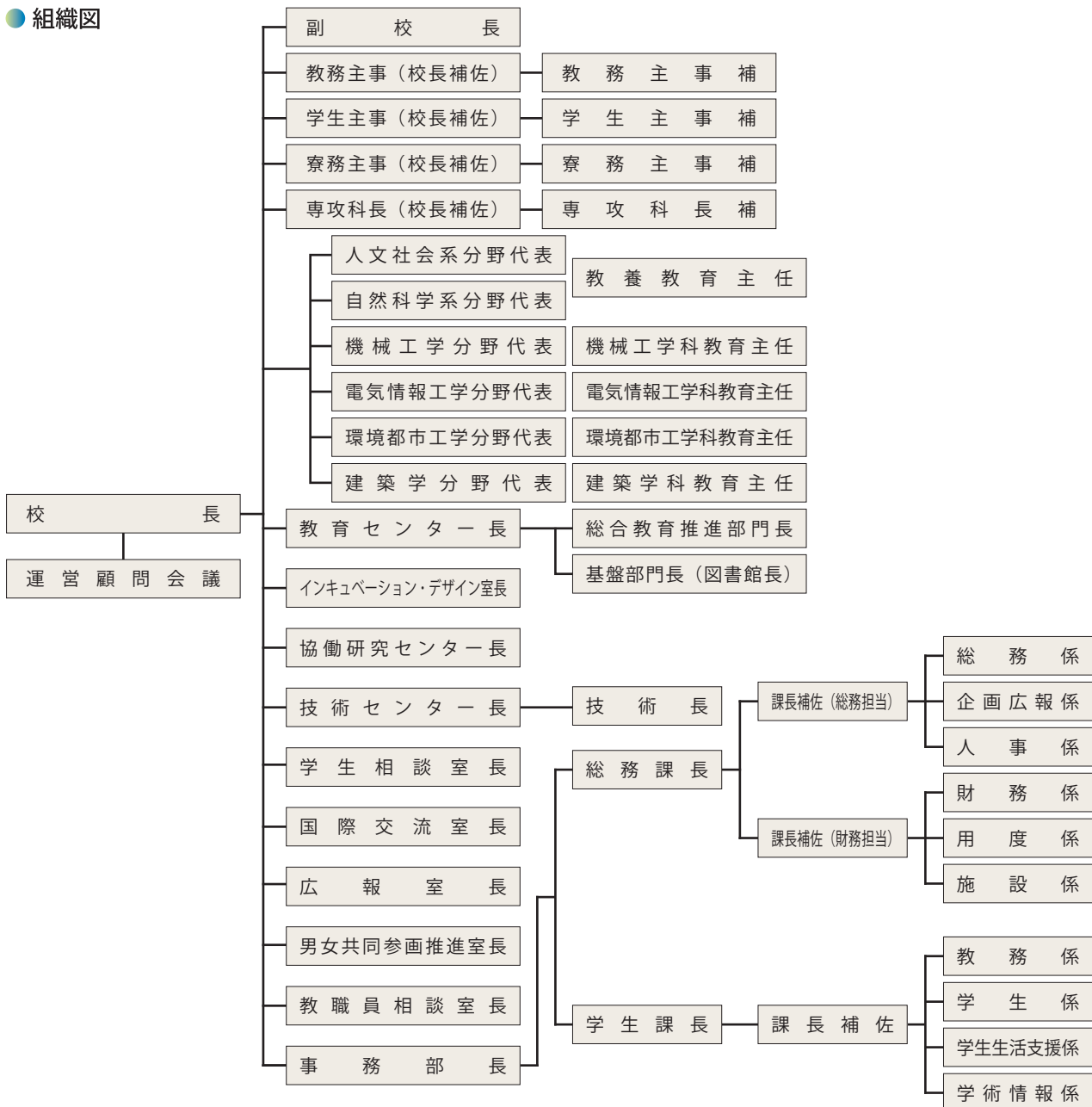
平成 29 年 4 月 1 日

● 教職員の現員

職 名	教 員							職 員	合 計
	校 長	教 授	准教授	講 師	助 教	特 命	計		
現 員	1	23	33 (3)	4 (2)	5 (1)	4	70 (6)	40 (12)	110 (18)

() : 女子教職員内数

● 組織図



● 主な委員会等

総務委員会	自己点検・評価委員会	予算計画部会	施設計画部会
教務委員会	学生指導委員会	寮務委員会	入学者選抜委員会
教育センター委員会	インキュベーション・デザイン委員会	協働研究センター委員会	技術センター委員会
国際交流委員会	キャリア教育推進室	e-ラーニング推進室	3Dプリンタ応用開発研究室
情報セキュリティ管理委員会	情報セキュリティ推進委員会	知的財産委員会	安全衛生委員会

● 役職員

組	織	氏 名
校	長	森 野 数 博
副	校 長	黒 木 太 司
教 務 主 事 (校 長 補 佐)		篠 部 裕
学 生 主 事 (校 長 補 佐)		西 坂 強
寮 務 主 事 (校 長 補 佐)		外 村 彰
専 攻 科 長 (校 長 補 佐)		中 迫 正 一
人 文 社 会 系 分 野 代 表		木 原 滋 哉
自 然 科 学 系 分 野 代 表		森 貞 雄
機 械 工 学 分 野 代 表		尾 川 茂
電 気 情 報 工 学 分 野 代 表		田 中 誠
環 境 都 市 工 学 分 野 代 表		森 脇 武 夫
建 築 学 分 野 代 表		間 瀬 実 郎
教 養 教 育 主 任		森 貞 雄
機 械 工 学 科 教 育 主 任		野 村 高 広

組	織	氏 名
電 気 情 報 工 学 科 教 育 主 任		横 瀬 義 雄
環 境 都 市 工 学 科 教 育 主 任		黒 川 岳 司
建 築 学 科 教 育 主 任		松 野 一 成
教 育 セ ン タ ー 長		篠 部 裕
イ ン キ ュ ベ ー シ ョ ン ・ デ ザ イ ン 室 長		林 和 彦
協 働 研 究 セ ン タ ー 長		山 脇 正 雄
技 術 セ ン タ ー 長		山 脇 正 雄
学 生 相 談 室 長		宇 根 俊 範
国 際 交 流 室 長		尾 川 茂
広 報 室 長		間 瀬 実 郎
男 女 共 同 参 画 推 進 室 長		松 野 一 成
事 務 部 長		吉 田 元 重
総 務 課 長		松 村 務
学 生 課 長		村 岡 昌 良

● 歴代校長

氏 名	在 職 期 間
葛 西 重 男	昭 和 39 年 4 月 1 日 ~ 昭 和 50 年 4 月 1 日
佐 藤 重 夫	昭 和 50 年 4 月 1 日 ~ 昭 和 58 年 6 月 1 日
西 正 任	昭 和 58 年 6 月 2 日 ~ 平 成 2 年 3 月 31 日
片 島 三 朗	平 成 2 年 4 月 1 日 ~ 平 成 8 年 3 月 31 日

氏 名	在 職 期 間
長 町 三 生	平 成 8 年 4 月 1 日 ~ 平 成 13 年 3 月 31 日
福 永 秀 春	平 成 13 年 4 月 1 日 ~ 平 成 19 年 3 月 31 日
遠 藤 一 太	平 成 19 年 4 月 2 日 ~ 平 成 24 年 3 月 31 日
森 野 数 博	平 成 24 年 4 月 1 日 ~

● 名誉教授

氏 名	氏 名	氏 名
堀 武 夫	阿 部 康 俱	今 井 勲
鍋 本 暁 秀	田 邊 達 雄	石 井 淳 二
片 島 三 朗	長 町 三 生	若 宮 正 明
村 上 滋 樹	石 井 義 明	枘 本 紘 二
白 川 洋 二	星 健 三	西 村 光 正
奥 本 宏 三	大 林 潤	灘 野 宏 正

氏 名	氏 名	氏 名
京 免 進	福 原 安 洋	遠 藤 一 太
野 村 利 英	竹 村 和 夫	左 古 悦 雄
藤 井 健	小 堀 慈 久	植 田 義 文
正 野 崎 昭 二	川 尻 武 信	谷 岡 憲 三
福 永 秀 春	岡 中 正 三	
岩 根 三 邦	河 野 正 来	

● 運営顧問会議委員

氏 名	所 属 ・ 職 名
河 原 能 久	広 島 大 学 大 学 院 工 学 研 究 科 長
柳 下 宏	産 業 技 術 総 合 研 究 所 中 国 セ ン タ ー 長
串 岡 勝 明	広 島 県 商 工 労 働 局 イ ノ ベ ー シ ョ ン 推 進 チ ーム 担 当 課 長
近 藤 昭 博	呉 市 企 画 部 企 画 部 長
松 浦 泰 博	広 島 市 立 井 口 中 学 校 長

氏 名	所 属 ・ 職 名
熊 谷 鋭	株 式 会 社 エ ネ ル ギ ア ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ス 取 締 役 社 長
寺 原 正 彦	五 洋 建 設 株 式 会 社 中 国 支 店 総 務 部 長
島 田 裕 己	呉 工 業 高 等 専 門 学 校 同 窓 会 長
番 場 真 吾	中 国 新 聞 社 呉 支 社 長
谷 口 和 久	呉 工 業 高 等 専 門 学 校 後 援 会 長

組
織

教員一覽

専任教員

● 人文社会系分野

職名	氏名	学位	専門分野	主な担当科目	校務
教授	宇根 俊範 Une Toshinori	博士(文学)	日本古代史	歴史	学生相談室長
	木原 滋哉 Kihara Shigeya		社会	社会科学入門/法学	分野代表
	外村 彰 Tonomura Akira	博士(文学)	日本近代文学	現代文/日本語表現法	寮務主事
准教授	上杉 裕子 Uesugi Yuko	博士(学術)	英米文学 英語教育学	英語表現Ⅱ/英語/ 上級工業技術英語	電気情報 3年担任
	佐賀野 健 Sagano Takeshi	博士(工学)	スポーツ方法学	保健・体育	環境都市 2年担任
	富村 憲貴 Tomimura Noritaka	博士(文学)	英文学	コミュニケーション英語Ⅱ/ 上級コミュニケーション英語A・B/ 英語	寮務主事補
	平山 規義 Hirayama Noriyoshi		仏・英米文学	英語表現Ⅱ/ コミュニケーション英語Ⅱ	
講師	上芝 令子 Ueshiba Reiko	博士(学術)	日本古典文学(近世)	古典/現代文/日本語表現法/ 国語総合(古典・現代文)	寮務主事補
	大森 誠 Omori Makoto		英語教育学	コミュニケーション英語/ 英語表現	建築 1年担任
	蒲地 祐子 Kamochi Yuko		英文学	コミュニケーション英語Ⅰ/ 英語表現Ⅱ/科学英語表現法Ⅰ	学生主事補
	丸山 啓史 Maruyama Keishi	博士(教育学)	コーチング学	保健・体育	学生主事補

● 自然科学系分野

職名	氏名	学位	専門分野	主な担当科目	校務
教授	笠井 聖二 Kasai Seiji	理学博士	物理・情報	物理/応用物理/応用物理Ⅰ	基盤部門長兼図書館長 教務主事補
	森 貞雄 Mori Sadao	博士(工学)	光応用	物理/確率統計	分野代表 教育主任
准教授	赤池 祐次 Akaike Yuji	博士(理学)	数学	微分積分Ⅰ/基礎数学B	機械 2年担任
	影山 優 Kageyama Masaru	博士(理学)	数学	線形代数Ⅰ/基礎数学B	電気情報 1年担任
	川勝 望 Kawakatsu Nozomu	博士(理学)	宇宙物理学	基礎数学A/微分方程式/ 線形代数Ⅱ/数学応用工学Ⅱ	機械 1年担任
	小林 正和 Kobayashi Masakazu	博士(理学)	宇宙物理学	基礎数学B/微分積分Ⅰ/ 微分方程式	環境都市 3年担任
	田中 慎一 Tanaka Shinichi	博士(理学)	光化学 生物物理学	化学/物質科学	環境都市 1年担任
	林 和彦 Hayashi Kazuhiko	博士(工学)	真空・表面研究	物理/物理応用工学	総合教育推進部門長 インキュベーション・デザイン室長
	平松 直哉 Hiramatsu Naoya	博士(理学)	数学	線形代数Ⅰ/数学応用工学Ⅰ	電気情報 2年担任
	深澤 謙次 Fukazawa Kenji	理学博士	物理 教育工学	応用数学Ⅰ・Ⅱ・A・B/ 応用物理/量子力学	専攻科長補

● 機械工学分野

職名	氏名	学位	専門分野	主な担当科目	校務
教授	岩本 英久 Iwamoto Hidehisa	博士(工学)	経営工学 医療福祉工学	経営工学/システム工学/ 経営マネジメント/ 福祉工学	機械4年担任
	尾川 茂 Ogawa Shigeru	博士(工学)	振動工学 流体工学	振動工学/流体工学/計測工学	分野代表 国際交流室長
	高田 一貴 Takata Kazutaka	工学博士	熱流体の移動現象 分離工学	熱工学/伝熱工学/冷凍工学	機械5年担任
	中迫 正一 Nakasako Masakazu	博士(工学)	機械要素 トライボロジー	材料力学Ⅰ/材料力学Ⅱ/ 複合工学実験	専攻科長
	西坂 強 Nishizaka Tsuyoshi	博士(工学) 技術士(金属部門)	金属材料 表面処理	材料学/トライボロジー/ 機械設計製図	学生主事
	山田 宏 Yamada Hiroshi	工学博士	薄膜材料 ナノデバイス・プロセス	技術者倫理/ ナノテクノロジー(先端工学特講)/ 数値計算法	寮務主事補
准教授	上寺 哲也 Uedera Tetsuya	博士(工学)	構造最適化	機械設計製図/工学実験/ 機械要素設計	専攻科長補
	野村 高広 Nomura Takahiro	博士(工学)	流体工学	流体工学/工学実験	教育主任
	山田 祐士 Yamada Yuji	博士(工学)	制御工学	制御工学/機械設計製図/ 工学実験	教務主事補
	吉川 祐樹 Yoshikawa Yuki	博士(工学)	半導体設計のCAD技術	情報処理Ⅰ・Ⅱ/ メカトロニクスⅠ・Ⅱ/ 論理回路	機械3年担任
助教	國安 美子 Kuniyasu Yoshiko	博士(工学)	金属疲労 表面改質	加工学/機械設計製図	

● 電気情報工学分野

職名	氏名	学位	専門分野	主な担当科目	校務
教授	黒木 太司 Kuroki Futoshi	工学博士	電磁波システム工学	通信工学/電磁界理論/ 電磁波システム工学	副校長
	田中 誠 Tanaka Makoto	工学博士	組み込みシステム	ものづくり実習/電気磁気学	分野代表
	藤井 敏則 Fujii Toshinori	博士(工学)	制御工学	エネルギーネットワーク工学/ プロジェクトデザイン工学総合Ⅰ・Ⅱ/ プロジェクトデザイン工学演習	専攻科長補
	山脇 正雄 Yamawaki Masao	博士(工学)	半導体デバイス 3次元積層造形	電子工学/電子デバイス/ パワーエレクトロニクス	協働研究センター長 技術センター長
准教授	井上 浩孝 Inoue Hirotaka	博士(工学)	人工知能機械学習	情報処理Ⅰ・Ⅲ/アルゴリズム/ 情報ネットワーク	寮務主事補
	板東 能生 Bando Yoshio	博士(学術)	熱電変換	電気・電子計測/ 電気電子材料/電子回路	教務主事補
	平野 旭 Hirano Akira	博士(工学)	生体情報工学	電気情報工学実験/ 情報通信工学実験/ 信号処理	電気情報5年担任
	横瀬 義雄 Yokose Yoshio	博士(工学)	ソフトコンピューティ ング	情報理論/電気磁気学/ ソフトコンピューティング	教育主任
	横沼 実雄 Yokonuma Mitsuo		電気電子材料	エネルギー変換工学Ⅰ・Ⅱ/ モーターエレクトロニクス/ 電気回路	電気情報4年担任
助教	外谷 昭洋 Toya Akihiro	博士(工学)	集積回路工学	電気・電子計測/電気数学/ 応用電子回路	

教員一覽

● 環境都市工学分野

職名	氏名	学位	専門分野	主な担当科目	校務
教授	及川 栄作 Oikawa Eisaku	博士(工学)	環境バイオ工学	環境工学／遺伝子工学概論／生命科学	環境都市4年担任
	加納 誠二 Kano Seiji	博士(工学)	地盤工学 防災工学		(高専機構併任)
	神田 佑亮 Kanda Yusuke	博士(工学) 技術士(総合技術管理部門) PMP	公共政策 土木・交通計画学	エンジニアリングデザイン／ 環境都市工学演習Ⅰ／ 実験実習(測量)	学生主事補
	森脇 武夫 Moriwaki Takeo	工学博士	地盤工学	土質力学・土質力学A・B／ 応用測量／実験実習(土質)	分野代表
准教授	河村 進一 Kawamura Shinichi	博士(工学)	構造解析	鋼構造A／土木CAD／ エンジニアリングデザイン	教務主事補
	黒川 岳司 Kurokawa Takeshi	博士(工学)	環境水理学	水理学A・B／ 実験実習(水理)／情報処理	教育主任
	重松 尚久 Shigematsu Takahisa	博士(工学)	建設施工	建設施工Ⅰ・Ⅱ／測量／ 実験実習(土質)	環境都市5年担任
	堀口 至 Horiguchi Itaru	博士(工学)	コンクリート材料	コンクリート工学／建設材料／ 実験実習(材料)	学生主事補
	三村 陽一 Mimura Yoichi	博士(工学)	コンクリート構造		(在外研究)
	山岡 俊一 Yamaoka Shunichi	博士(工学)	都市交通計画 地域まちづくり	都市計画／交通計画A／ 社会基盤計画学Ⅰ・Ⅱ	専攻科長補
助教	木村 善一郎 Kimura Zenichiro	博士(工学)	環境微生物学	ライフサイエンス・アースサイエンス／ 自然生態学／微生物学Ⅱ	寮務主事補
	谷川 大輔 Tanikawa Daisuke	博士(工学)	環境工学	実験実習(測量・衛生)／ 水環境工学／環境保全	

● 建築学分野

職名	氏名	学位	専門分野	主な担当科目	校務
教授	泉 洋輔 Izumi Yosuke	博士(工学) 一級建築士	建築構造	建築構造力学Ⅱ・Ⅲ／ RC構造設計Ⅰ・Ⅱ／耐震構造	寮務主事補
	篠部 裕 Shinobe Hiroshi	博士(工学) 一級建築士 技術士(建設部門)	都市計画	建築概論／都市計画／ 建築設計製図Ⅲ	教務主事 教育センター長
	間瀬 実郎 Mase Jitsuro	工学博士	建築CAD	造形Ⅰ・Ⅱ／建築設計製図Ⅳ・Ⅴ／ CAD・CG	分野代表 広報室長
	松野 一成 Matsuno Kazunari	博士(工学)	耐震構造	鉄筋コンクリート構造／ 建築材料Ⅰ・Ⅱ／建築生産	男女共同参画推進室長 教育主任
准教授	安 箱敏 Ahn Sangmin	博士(学術)	建築設計 建築計画	建築設計製図Ⅱ・Ⅳ／ インテリア概論Ⅰ／建築意匠	専攻科長補
	岩城 考信 Iwaki Yasunobu	博士(工学)	建築史 環境史	建築史Ⅰ・Ⅱ／近代デザイン史／ ものづくり実習	建築2年担任
	下倉 玲子 Shimokura Reiko	博士(工学)	建築計画	建築計画Ⅱ／ 建築設計製図Ⅲ・Ⅴ／工業英語	建築4年担任
	仁保 裕 Niho Yutaka	博士(工学)	骨組構造解析	鋼構造／情報処理Ⅱ／ 建築構造力学Ⅱ	建築3年担任
	光井 周平 Mitsui Shuhei	博士(工学)	木質材料 構造解析	建築構法Ⅰ／建築構造力学Ⅰ／ 建築工学実験	
	大和 義昭 Yamato Yoshiaki	博士(学術) 一級建築士	建築環境	建築環境工学／建築設備／ 環境人間工学	建築5年担任
助教	宮崎 崇文 Miyazaki Takafumi	博士(学術)	建築計画	福祉住環境／建築設計製図	

● 専攻科

職名	氏名	学 位	主な担当科目
特命教授	佐藤 榮祐 Sato Eisuke	技術士(機械部門)	プロジェクトデザイン工学演習/ プロジェクトマネジメント
特命教授	大田 一夫 Ota Kazuo	技術士(建設部門)	インターンシップ/ プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠ・Ⅱ
特命教授	中西 敏明 Nakanishi Toshiaki	一級建築士	プロジェクトデザイン工学演習/ プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠ・Ⅱ
特命准教授	藤本 義彦 Fujimoto Yoshihiko	博士(学術)	グローバル倫理/ 6高専連携教育

● 再雇用教員

職名	氏名	学 位	主な担当科目
嘱託教授	西宮 善幸 Nishimiya Yoshiyuki	一級建築士	建築設計製図Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ/ 建築法規/建築設計演習Ⅱ
嘱託准教授	山崎 勉 Yamasaki Tsutomu		電気回路/電気情報工学実験

● 非常勤講師

氏名	担当科目	氏名	担当科目
芦田 嘉之 Ashida Yoshiyuki	ライフサイエンス・アースサイエンス	谷川 博昭 Tanigawa Hiroaki	エネルギー発生工学
アンソニー・ネピア Anthony Nepia	英語表現Ⅰ/工業英語/ インキュベーションワーク	谷村 仰仕 Tanimura Takashi	インキュベーションワーク
李 政樹 I Jonsu	ハングル	帖佐 幸樹 Chosa Hideki	日本語・日本事情
石田 尚則 Ishida Hisanori	不動産概論Ⅰ	寺重 隆視 Terashige Takashi	電気工学
板倉 大貴 Itakura Taiki	国語総合(現代文)/ 日本語表現法	豊田 宗生 Toyota Muneo	エネルギー発生工学
板野 浩一 Itano Koichi	プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠ	西谷 明子 Nishitani Akiko	ドイツ語
大山 晴香 Oyama Haruka	化学	林 健次郎 Hayashi Kenjiro	建築設計製図Ⅲ
岡中 正三 Okanaka Shozo	基礎数学B	范 叔如 Han Shukujo	中国語
奥田 秀巳 Okuda Hidemi	哲学	東 宏昭 Higashi Hiroaki	体育
越智 康雄 Ochi Yasuo	情報処理	福田 直三 Fukuda Naozo	防災工学ⅠA/ 防災工学Ⅱ
鍵山 昌信 Kagiya Masanobu	建築設計製図Ⅳ	古屋 辰郎 Furuya Tatsuro	地理
川尻 武信 Kawajiri Takenobu	コミュニケーション英語Ⅰ	穂垣 友康 Hogaki Tomoyasu	建築設計製図Ⅳ
菊池 達也 Kikuchi Tatsuya	歴史	松江 裕美 Matsue Hiromi	コミュニケーション英語Ⅰ/ コミュニケーション英語Ⅱ
権 俸基 Kuon Bonki	インキュベーションワーク	水谷 友一 Mizutani Yuichi	応用物理
楠田 和身 Kusuda Kazumi	知的財産権論/ インキュベーションワーク	溝上 裕二 Mizoue Yuji	プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠ
坂本 全教 Sakamoto Masanori	化学	吉田 豊 Yoshida Yutaka	建築設計製図Ⅳ
重松 恒美 Shigematsu Tsunemi	構造力学/構造力学A/ 構造力学B	劉 鳴 Ryu Mei	中国語
高松美代子 Takamatsu Miyoko	芸術	渡邊 英幸 Watanabe Hideyuki	体育

在学状況等

平成 29 年 4 月 1 日

● 学生の定員及び現員 ＜本科＞

学 科	区 分	入学 定員	総定員	在学学生数					合計
				1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	
機 械 工 学 科		40	200	42 (1)	43 (6)	41 (1) (4)	37 (1) (3)	45 (1) (1)	208 (3) (15)
電 気 情 報 工 学 科		40	200	41 (3)	41 (5)	48 (4)	37 (1)	44 (1) (5)	211 (1) (18)
環 境 都 市 工 学 科		40	200	42 (14)	42 (12)	43 (1) (10)	41 (1) (10)	50 (7)	218 (2) (53)
建 築 学 科		40	200	45 (24)	41 (22)	45 (15)	43 (1) (13)	43 (1) (12)	217 (2) (86)
合 計		160	800	170 (42)	167 (45)	177 (2) (33)	158 (3) (27)	182 (3) (25)	854 (8) (172)

() : 女子学生内数 [] : 留学生内数

● 学生の定員及び現員 ＜専攻科＞

平成 29 年 4 月 1 日

専 攻	区 分	入学 定員	総定員	在学学生数		合計
				1 学年	2 学年	
フ ォ ー ム デ ザ イ ン 工 学 専 攻 科		40	80	20 (3)	23 (2)	43 (5)

() : 女子学生内数

● 通学状況別学生数

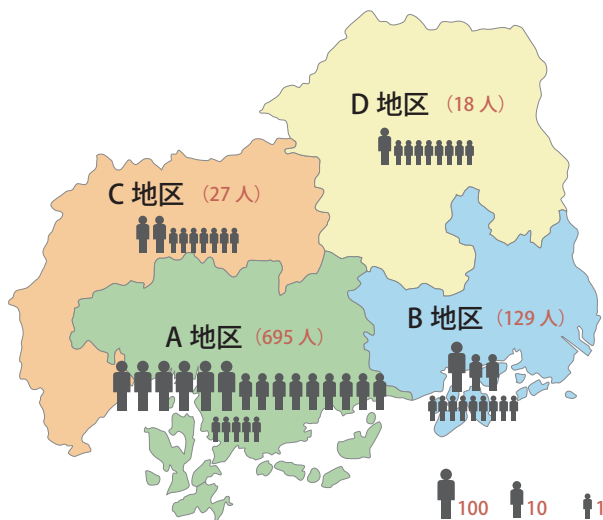
平成 29 年 4 月 1 日

区 分	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	専攻科	合計
自 宅 ・ そ の 他	110 (31)	113 (38)	105 (15)	104 (17)	121 (16)	37 (5)	590 (112)
学 生 寮	60 (11)	54 (7)	72 (18)	54 (10)	61 (9)	6 (0)	307 (55)
合 計	170 (42)	167 (45)	177 (33)	158 (27)	182 (25)	43 (5)	897 (177)

() : 女子学生内数

● 出身地別学生数

平成 29 年 4 月 1 日



県 内	A 地区	広島市 296 名、呉市 216 名、竹原市 11 名、東広島市 98 名、江田島市 8 名、安芸郡 62 名、豊田郡 4 名
	B 地区	三原市 30 名、尾道市 26 名、福山市 61 名、府中市 12 名
	C 地区	大竹市 2 名、廿日市市 19 名、安芸高田市 3 名、山県郡 3 名
	D 地区	三次市 5 名、庄原市 3 名、世羅郡 10 名、神石郡 0 名
県 外		岡山県 5 名、島根県 3 名、山口県 2 名、愛媛県 4 名、大阪府 1 名、兵庫県 1 名、鳥取県 1 名、福岡県 3 名
留 学 生		マレーシア 5 名、カンボジア 2 名、モンゴル 1 名

入学選抜実施状況

● 本 科

年度	学 科 名	入学 定員	特別推薦		一般推薦			学力検査			入学者
			志願者	合格者	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	
平成 27 年度	機 械 工 学 科	40	4 (0)	4 (0)	32 (3)	16 (3)	2.0	36 (0)	20 (2)	1.8	38 (5)
	電 気 情 報 工 学 科	40	5 (0)	5 (0)	52 (5)	18 (3)	2.9	47 (4)	22 (1)	2.1	45 (4)
	環 境 都 市 工 学 科	40	1 (0)	1 (0)	35 (9)	16 (6)	2.2	31 (3)	24 (3)	1.3	41 (9)
	建 築 学 科	40	5 (1)	5 (1)	55 (20)	16 (9)	3.4	55 (18)	23 (5)	2.4	44 (15)
	合 計	160	15 (1)	15 (1)	174 (37)	66 (21)	2.6	169 (25)	89 (11)	1.9	168 (33)
平成 28 年度	機 械 工 学 科	40	2 (0)	2 (0)	44 (3)	16 (2)	2.8	46 (2)	25 (2)	1.8	42 (4)
	電 気 情 報 工 学 科	40	7 (0)	7 (0)	38 (5)	16 (2)	2.4	35 (4)	18 (3)	1.9	41 (5)
	環 境 都 市 工 学 科	40	6 (3)	6 (3)	42 (7)	17 (6)	2.5	52 (5)	21 (3)	2.5	42 (12)
	建 築 学 科	40	12 (6)	12 (6)	49 (22)	16 (9)	3.1	41 (16)	16 (9)	2.6	42 (23)
	合 計	160	27 (9)	27 (9)	173 (37)	65 (19)	2.7	174 (27)	80 (17)	2.2	167 (44)
平成 29 年度	機 械 工 学 科	40	8 (1)	8 (1)	34 (0)	16 (0)	2.1	45 (0)	17 (0)	2.6	40 (1)
	電 気 情 報 工 学 科	40	6 (0)	6 (0)	50 (3)	17 (2)	2.9	54 (1)	20 (1)	2.7	41 (3)
	環 境 都 市 工 学 科	40	6 (1)	6 (1)	41 (14)	16 (9)	2.6	48 (10)	21 (4)	2.3	42 (14)
	建 築 学 科	40	9 (5)	9 (5)	59 (27)	17 (12)	3.5	54 (18)	18 (6)	3.0	44 (23)
	合 計	160	29 (7)	29 (7)	184 (44)	66 (23)	2.8	201 (29)	76 (11)	2.6	167 (41)

() : 女子学生内数

● 専攻科

年度	専 攻	入学 定員	試験種類	志願者 (計)	合格者 (計)	倍率	入学者 (計)	
平成 27 年度	機 械 電 気 工 学	8	推 薦	9 (0)	20 (0)	8 (0)	1.1	8 (0)
			学 力	11 (0)		10 (0)		7 (0)
			社会人	0		0		0
	建 設 工 学	8	推 薦	7 (2)	18 (3)	5 (1)	1.4	5 (1)
学 力			11 (1)	8 (1)		6 (1)		
社会人			0	0		0		
平成 28 年度	機 械 電 気 工 学*	8	推 薦	2 (0)	15 (1)	2 (0)	1.3	2 (0)
			学 力	13 (1)		10 (1)		8 (1)
			社会人	0		0		0
	建 設 工 学*	8	推 薦	6 (0)	18 (1)	6 (0)	1.1	6 (0)
学 力			12 (1)	10 (1)		7 (1)		
社会人			0	0		0		
平成 29 年度	プロジェクトデザイン工学	40	推 薦	5 (1)	36 (7)	5 (1)	1.1	5 (1)
			学 力	28 (6)		25 (5)		13 (2)
			学 力 (二次募集)	3 (0)		2 (0)		2 (0)
			社会人	0		0		0

※平成 28 年度の入学先はプロジェクトデザイン工学専攻

() : 女子学生内数

● 本科 4 年次編入

年度	学 科 名	入学 定員	志願者	合格者	入学者
平成 28 年度	機 械 工 学 科	募集なし	-	-	-
	電 気 情 報 工 学 科	若干名	1 (0)	0 (0)	-
	環 境 都 市 工 学 科	募集なし	-	-	-
	建 築 学 科	若干名	3 (0)	2 (0)	1 (0)
	合 計		4 (0)	2 (0)	1 (0)
平成 29 年度	機 械 工 学 科	若干名	-	-	-
	電 気 情 報 工 学 科	若干名	2 (0)	0 (0)	-
	環 境 都 市 工 学 科	若干名	-	-	-
	建 築 学 科	若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)
	合 計		4 (0)	2 (0)	2 (0)

() : 女子学生内数

修学経費等

● 修学経費

平成 29 年度入学者

入学料	授業料	教科書・ 教具等	制服代	学生会 入会金	学生会費	後援会費	合 計
84,600 円	234,600 円	約 65,000 円	約 70,000 円	500 円	6,000 円	35,000 円	約 495,700 円

○授業料：入学から在籍 36 ヶ月までは就学支援金が支給

● 授業料減免者数

区 分	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
全 額 免 除	29 (1)	26 (2)	29 (2)	30 (3)	30 (4)	27 (3)
半 額 免 除	9 (1)	4 (0)	18 (1)	4 (1)	11 (1)	11 (1)
1/4 額 免 除						7 (0)
合 計	38 (2)	30 (2)	47 (3)	34 (4)	41 (5)	45 (4)

() : 専攻科生内数

● 奨学生数

(日本学生支援機構奨学金)

年度	区分	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	専攻科 1 学年	専攻科 2 学年	合 計	
平成 26 年度	第一種	自宅	8	6	3	9	4	0	1	31
		自宅外	11	9	4	10	8	0	1	43
	第二種				2	0	1	0	3	
	計		19	15	7	21	12	1	2	77
平成 27 年度	第一種	自宅	3	10	5	4	9	0	0	31
		自宅外	8	11	8	3	10	3	0	43
	第二種				0	2	0	1	3	
	計		11	21	13	7	21	3	1	77
平成 28 年度	第一種	自宅	1	3	11	6	5	1	0	27
		自宅外	3	8	9	9	1	1	3	34
	第二種				1	0	1	0	2	
	計		4	11	20	16	6	3	3	63

※第二種奨学金（有利息）は、4 学年・5 学年・専攻科が対象

進路状況

● 平成 28 年度卒業生・修了者

区 分	卒業生・ 修了者数	進学者	就 職				その他	
			就職希望者数	求人数	就職者数	求人倍率		
学 科	機械工学科	38 (2)	7 (0)	30 (2)	656	30 (2)	21.9	1
	電気情報工学科	37 (4)	11 (2)	26 (2)	754	26 (2)	29.0	0
	環境都市工学科	39 (10)	9 (3)	30 (7)	426	30 (7)	14.2	0
	建築学科	38 (13)	12 (2)	24 (10)	417	24 (10)	17.4	2
	合計	152 (29)	39 (7)	110 (21)	2253	110 (21)	20.5	3
専攻科	機械電気工学専攻	14 (0)	5 (0)	9 (0)	501	9 (0)	55.7	0
	建設工学専攻	11 (2)	3 (0)	8 (2)	322	8 (2)	40.3	0
	合計	25 (2)	8 (0)	17 (2)	823	17 (2)	48.4	0

() : 女子学生内数

進学状況

● 大学編入学及び専攻科入学状況

大学名	卒業年度				
	～H24	H25	H26	H27	H28
北海道大学	9				
北海道教育大学	1				
室蘭工業大学	7				
北見工業大学	1				
岩手大学	4				
東北大学	12				
秋田大学	1				
図書館情報大学	4				
筑波大学	6			2	1
宇都宮大学	4				
群馬大学	3				
埼玉大学	4				
千葉大学	25		1		
東京大学	10				
東京農工大学	27	1		1	1
東京工業大学	25				
電気通信大学	13				2
横浜国立大学	10	1	1	1	2
新潟大学	2				
長岡技術科学大学	55	3	2		1
山梨大学	32				
信州大学	5				2
富山大学	0	1		1	
金沢大学	3				
福井大学	10				
岐阜大学	7				
静岡大学	1				
名古屋大学	1				
名古屋工業大学	9				
豊橋技術科学大学	140	5	6	3	

※東京大学、京都大学については2年次への編入

大学名	卒業年度				
	～H24	H25	H26	H27	H28
三重大学	26		2		
京都大学	1				
京都工芸繊維大学	6				
大阪大学	24	3		2	1
神戸大学	6	2		1	
奈良女子大学	3				
鳥取大学	6				
島根大学	5				
岡山大学	55	2	2		
広島大学	140	2	3	1	4
山口大学	52	3	1		
徳島大学	10				
香川大学	1				
愛媛大学	33				
高知大学	1			1	
九州大学	18		1		1
九州芸術工科大学	1				
九州工業大学	47	2			1
佐賀大学	18				
長崎大学	11				
熊本大学	31	1	1	2	1
大分大学	9				
宮崎大学	8				
鹿児島大学	2				
琉球大学	4				
小計	949	26	20	15	17
公立大学計	42	1	3	1	1
私立大学計	25	1	1	1	0
呉高専専攻科	325	12	26	23	20
その他高専専攻科	7	1	1	0	0
合計	1348	41	51	40	38

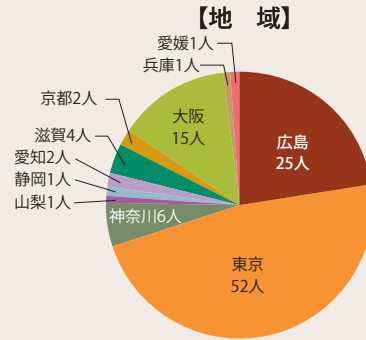
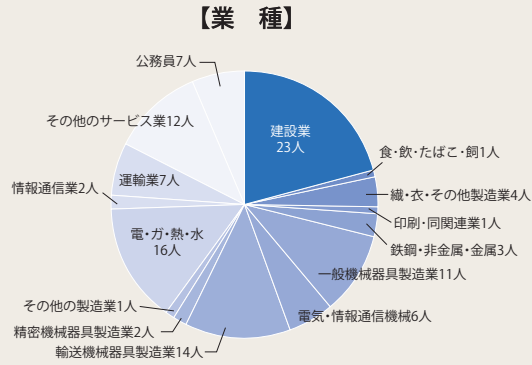
● 大学院入学状況

大学名	修了年度				
	～H24	H25	H26	H27	H28
筑波大学			1		
東京工業大学			1		
長岡技術科学大学		1			1
豊橋技術科学大学	2			2	1
京都工芸繊維大学					1
大阪大学	1				
神戸大学	2		1		
奈良先端科学技術大学院大学	2	2			
岡山大学		1	1		
広島大学	4				1

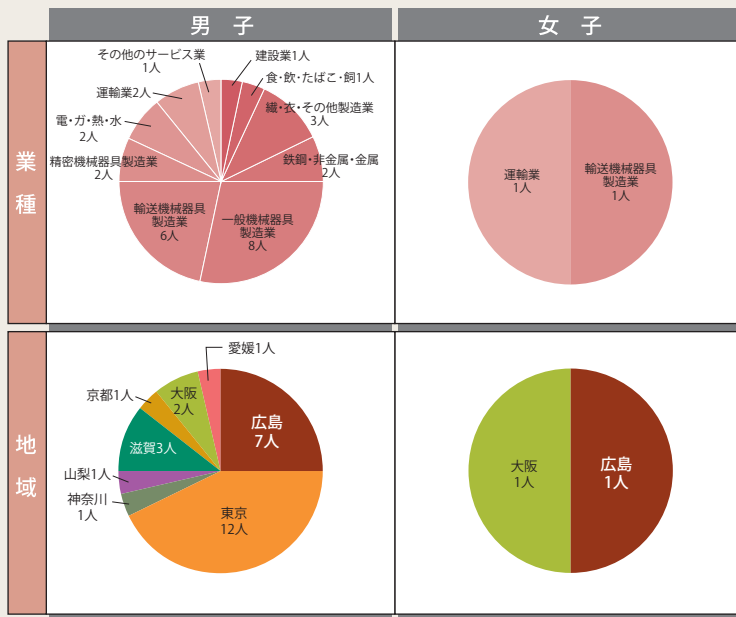
大学名	修了年度				
	～H24	H25	H26	H27	H28
山口大学					1
愛媛大学	1				
九州大学	1				
九州工業大学	1				
長崎大学					1
京都府立大学	1				
兵庫県立大学					2
早稲田大学	4	1			
青山学院大学	3				
合計	22	5	4	2	8

就職状況（平成28年度）

● 本科



● 機械工学科

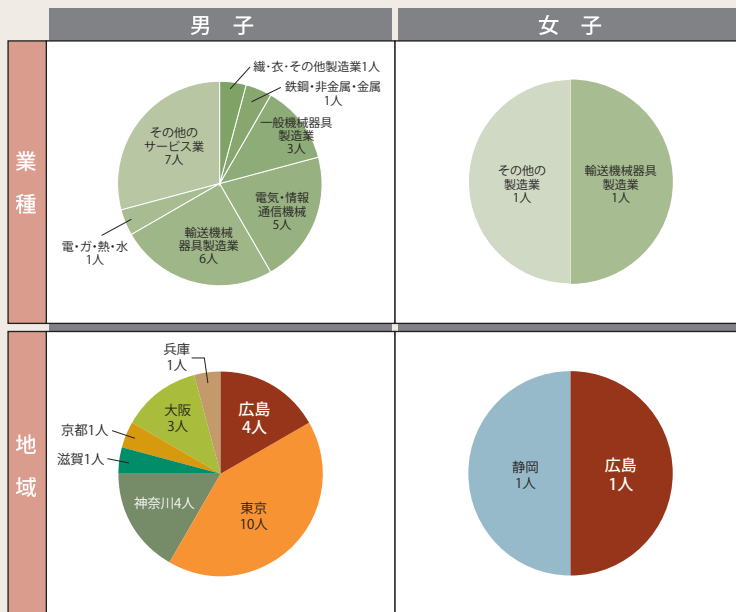


最近の主な就職先

- ・ IHI
- ・ 旭化成
- ・ 関西電力
- ・ キヤノン
- ・ J R東海
- ・ ダイキン工業
- ・ 中国電力
- ・ 千代田化工建設
- ・ ヒロテック
- ・ ファナック
- ・ 本田技研工業
- ・ マツダ
- ・ 三菱重工業
- ・ リョービ

※50音順

● 電気情報工学科



最近の主な就職先

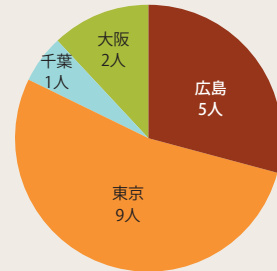
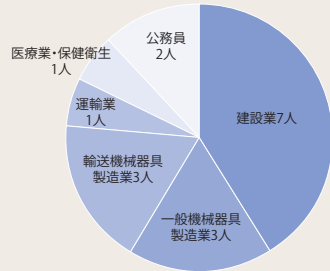
- ・ ANA
- ・ 大阪ガス
- ・ 花王
- ・ キヤノン
- ・ J R東海
- ・ J F E
- ・ ソニーエンジニアリング
- ・ ダイキン工業
- ・ 中国電力
- ・ ディスコ
- ・ パナソニック
- ・ 富士通コンピュータテクノロジーズ
- ・ マツダ
- ・ ヤマハ

※50音順

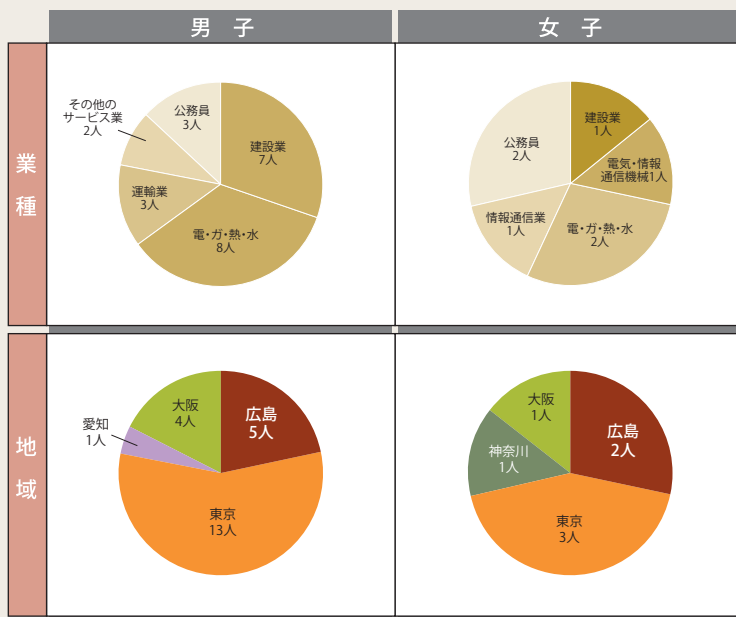
● 専攻科

【業 種】

【地 域】



● 環境都市工学科

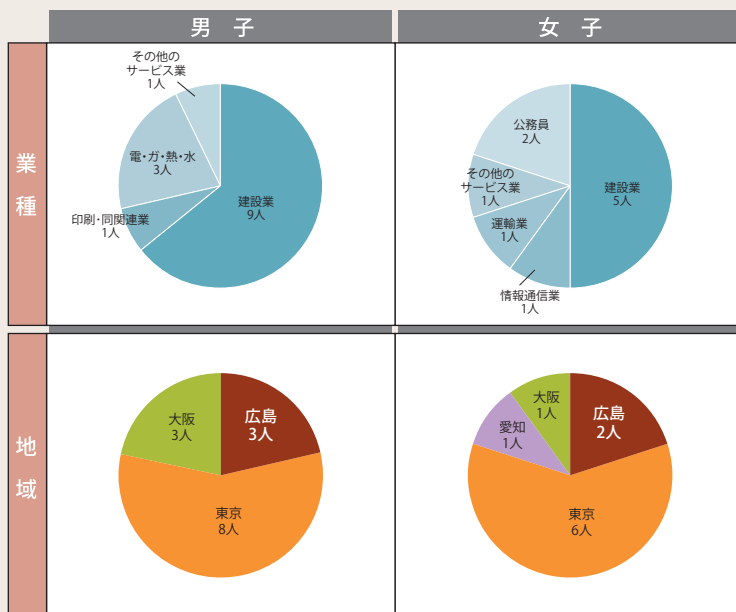


最近の主な就職先

- ・大阪ガス
- ・オルガノ
- ・関西電力
- ・呉市役所
- ・国土交通省
- ・五洋建設
- ・JR東海
- ・JR西日本
- ・大成建設
- ・中国電力
- ・西日本高速道路
- ・広島市役所
- ・福山市役所
- ・横河ブリッジ

※50音順

● 建築学科



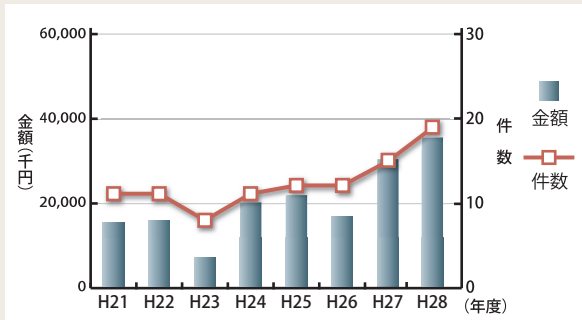
最近の主な就職先

- ・梓設計
- ・エネ・グリーン
- ・大林組
- ・関西電力
- ・国立印刷局
- ・JR東海
- ・住友林業
- ・大建設
- ・竹中工務店
- ・東京ガス
- ・東京都庁
- ・フジタ
- ・三菱地所コミュニティ
- ・ヤマネホールディングス

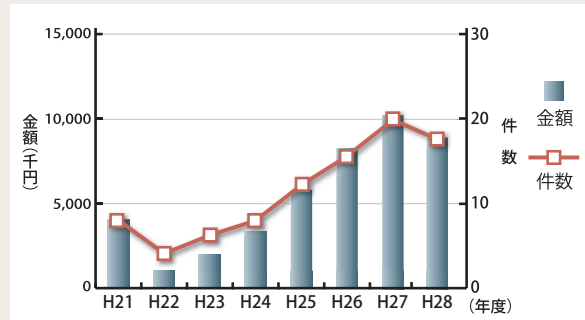
※50音順

教員の研究活動の推移

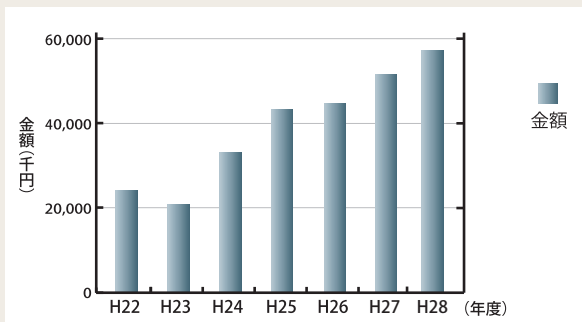
● 科学研究費



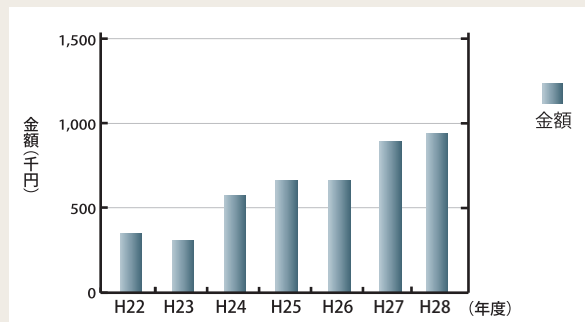
● 共同研究



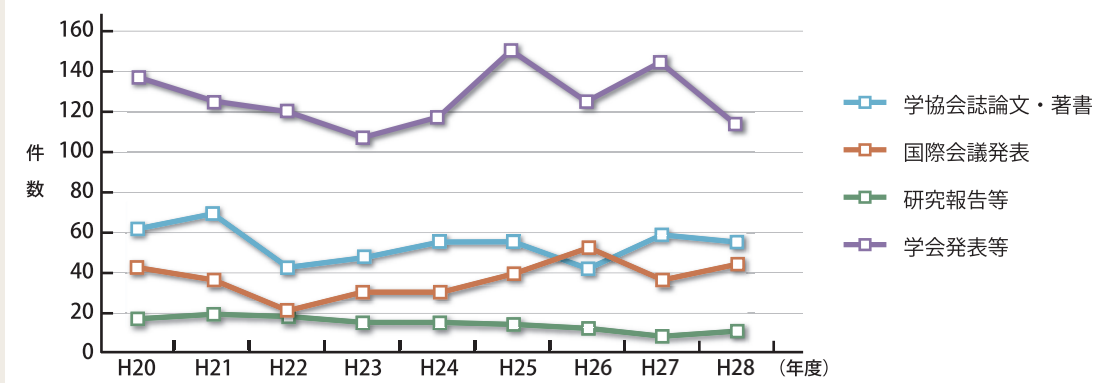
● 外部資金計



● 一人あたりの外部資金



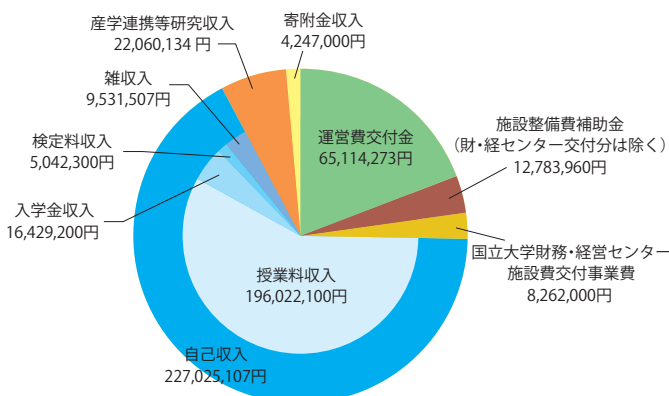
● 研究実績



収入支出決算額

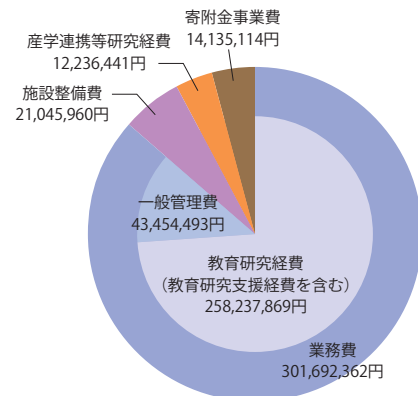
● 平成 27 年度収入決算額

合計 339,492,474 円



● 平成 27 年度支出決算額

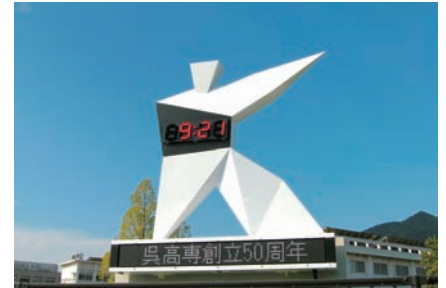
合計 349,109,877 円



施設の概要

敷地

総面積	校舎・学寮等敷地				職員宿舎敷地
	校舎敷地	運動場敷地	学寮敷地	計	
104,680㎡	53,697㎡	36,510㎡	8,317㎡	98,524㎡	6,156㎡



50周年記念時計台モニュメント

施設配置図



建物

区	分	建面積	延面積
校舎	普通教室	585	1,762
	第二普通教室	212	665
	機械工学科	591	1,765
	電気情報工学科	591	1,765
	建築学科	591	1,765
	環境都市工学科	607	2,365
	専攻科	313	954
	実習工場(技術センター)	660	660
	教育センター	301	301
	基礎工学実験室	51	92
	協働研究センター	364	1,426
	その他	124	124
	図書館	図書館	826
管理部	管理棟	519	1,550
	守衛所	17	17
	設備室	224	224
	電気室	28	28
	その他	953	953

区	分	建面積	延面積
屋内運動場	体育館	1,184	1,184
	第二体育館	888	888
	武道場	399	399
	その他	219	219
福利厚生施設	食堂	302	302
	合宿研修施設	234	234
	福利施設(静心館)	0	629
	その他	365	365
寄宿舍	第一寮	436	1,283
	第二寮	681	2,967
	第四寮	290	868
	第五寮	110	326
	第六寮	234	719
	寮食堂・浴室	608	608
	その他	172	172
計		13,679	29,307
宿舎	職員宿舎(広)	1,363	1,380
	”(青山)	284	1,395

呉市の紹介

Introduction of Kure City



呉市は、瀬戸内のほぼ中央部、広島県の南西部に位置し、瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島しょ部で構成される気候温和で自然環境に恵まれた都市です。市域面積は352.80km²で、市域全体を通じて平坦地が少なく集落が分断された形となっています。島しょ部を含めた海岸線延長は約300kmに及び、西日本有数の多島美を有する風光明媚な地勢を有しています。



灰ヶ峰からの夜景

また、瀬戸内有数の工業都市並びに県南西部地域の中心都市として、広島県の産業・経済の発展をけん引するとともに、ものづくりや豊富な地域資源といった多様な魅力を最大限に活かし、『絆』と『活力』を創造する都市・くれ』を目指したまちづくりを行っています。

平成24年には市制110周年を迎え、平成26年には近隣8町との合併後10年が経過しました。平成28年には、防災や市民協働の拠点となる市役所新庁舎が完成するとともに、中核市への移行、旧軍港4市による日本遺産認定など、「新生呉市」として新たな一歩を踏み出した呉市は、さらなる市民サービスの向上と地域の特色を最大限に活かした豊かで活力あるまちづくりを展開しています。

また、地域の「つながり」や人々の「絆」をより強く、より深いものにしていくため、「くれ絆プロジェクト」により、市民や市域の一体感をさらに強め、地域の魅力を後世に引き継ぐ取組を推進しています。

今後も、市民が将来にわたり夢や希望を持ち、安心して安全・快適に暮らしていくことができるよう、市民協働によるまちづくりをさらに進めていきます。

呉市の歴史

近代呉市の沿革は、明治19年に第二海軍区軍港に指定され、同22年の呉鎮守府開庁とともに本格的な海軍基地の建設が進められたことに端を発します。その後、明治35年に4町村が合併して市制を施行、翌年に呉海軍工廠が設置され、戦艦「大和」を建造した日本一の海軍工廠のまちとして発展しました。

しかし、終戦、海軍の解体により産業基盤を一旦に失い、中心市街地も戦災で廃墟と化しましたが、昭和25年に平和産業港湾都市への再生を目指す「旧軍港市転換法」が制定されたことにより、造船、鉄鋼、機械金属、パルプ産業等の企業が相次いで進出し、臨海工業地帯としての基盤を確立しました。

その後、平成15年～17年にかけて近隣8町と合併し、地域の特色ある資源を活かした魅力的なまちづくりに取り組んでいます。平成28年には全国で46番目、広島県では福山市に次いで2番目の中核市に移行しました。

また、平成17年4月に、明治以降の呉の歩みと科学技術の素晴らしさを語り継ぐ呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)が開館し、平成28年に来館者が1,100万人を突破するなど多くの来館者で賑わっています。

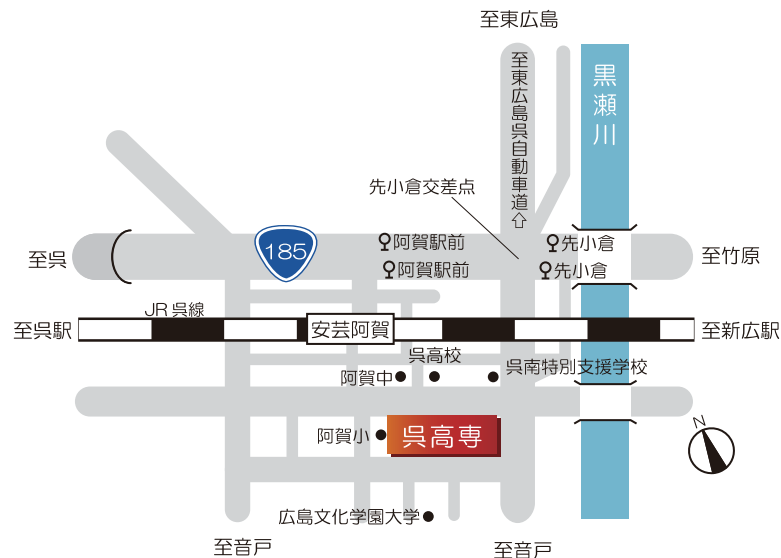


10分の1戦艦「大和」(大和ミュージアム)



入船山記念館(旧呉鎮守府司令長官官舎)

本校へのアクセス



交通案内

▶▶交通機関をご利用の場合

- JR呉線安芸阿賀駅下車 徒歩約7分
- 広島電鉄バス「先小倉」「阿賀駅前」下車、徒歩約10分

▶▶お車でお越しの場合

- 【広島方面から】広島呉道路(クリアライン)呉ICより20分
- 【東広島方面から】東広島呉道路、先小倉交差点より5分
- 【竹原方面から】国道185号、先小倉交差点より5分



呉高専ホームページ

<http://www.kure-nct.ac.jp/>

- 呉高専について、詳しくはホームページをご覧ください。
- 「呉高専日誌」では、学校行事や学生生活を日記風に紹介しています。



呉高専 検索

機械工学科

電気情報工学科

環境都市工学科

建築学科

プロジェクトデザイン工学専攻

<http://www.kure-nct.ac.jp/>

2017年度版



独立行政法人 国立高等専門学校機構

呉工業高等専門学校

平成29年5月発行

〒737-8506 呉市阿賀南二丁目2-11

<総務課> TEL.(0823)73-8400 FAX.(0823)71-9125

編集・発行 呉工業高等専門学校総務課